（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	細川　浩	所　属	医学部　システム生理学部門	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	Neurosicenceの最近の研究成果を授業に反映し講義ノートを改編する。 学生評価アンケートに基づき情報演習をより理解しやすい内容に変更する。	0.35	講義分担の変更により,神経科学、構造と機能の講義ノートを改編した。
研究	0.50	研究成果をまとめ、学会誌への投稿準備および学会発表を行う。 基礎研究（C）の課題研究を実施する。	0.50	研究成果を生理学会、聴覚研究会で発表した。
社会貢献	0.05	沖縄県体育協会の運営に競技審判員及び競技監督として貢献する。	0.05	九州ブロック、国体で山岳・スポーツクライミングの成年女子の監督として貢献した。
管理運営	0.10	委員会委員として運営に貢献する。	0.10	センター試験監督として入試の運営に貢献した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	梁　運飛	所　属	医学部　医学研究科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	学部教育科目の生理学の実習を担当し、学生の実習を丁寧に指導する。去年の実習に現れた問題により、実習講義及び実習の指導方法を改善して、学生の実習の質を一層高めることを目指す。	0.40	①去年度の学部学生の実習に現れた問題により、実習用テキストを改定し、今年度の二年生の学部学生の生理学実習は去年度よりかなり順調になった。②生理学実習カリキュラムと実習内容が変更された為、新たな実習用テキストを作り、今年度の一年生の学部学生の生理学実習を指導し、実習に関する教育目標を達成した。
研究	0.50	1、日本亜健康（未病）研究所と連携し糖尿病などの生活習慣病に関するの共同研究を行う。2、鹿児島大理学部との痛覚に関する共同研究を続けて行う。	0.50	①基調講演者として「The 1st World Congress on Food and Nutrition Science」国際学会で「The Effects of Diet Therapy on Preclinical Cancer Risk State 」を講演した。②招待講演者として「The International Congress of Weibing (2019)」国際学会で「Visualization and Precise Preventative Treatment on Pre-symptomatic Tumor」を講演した。
社会貢献	0.05	続けてボランティアとして日曜日の沖縄県民のための「中国語会話」の活動を取り組んで地域社会に貢献をする。	0.05	ボランティアで世話人として毎月の第二日曜日の午後に那覇市新都心で「中国語会話」の活動を行った。県民の参加者からの好評を得た。
管理運営	0.05	大学センター試験及び二次試験の監督関連業務等に積極的に参加する。	0.05	大学センター試験およびCBT 試験の監督業務に参加し、任務を成し遂げた。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	村山　貞之	所　属	医学研究科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.10	卒前教育：毎週のポリクリ、クリクラ時の教育、M2-4に対する放射線医学の講義　卒後教育：毎週の放射線科の症例検討会　逐次の専門修練医の教育。M4-M6学生に対してポリクリ時、クリクラ時に進路指導を行う。担当指導教官として指導を行う。	0.10	十分に目標を達成した。
研究	0.20	肺癌、感染症、呼吸機能、救急放射線に関する画像診断の研究を進める。新規導入の高精細CTを用いた研究（既に1500万の研究費を得ている。）、320列CTを用いた多施設研究、4D-flow MRによる肺高血圧症の診断（今年度から3年間の文部科研費基盤研究（C)を獲得済み）、末梢型肺がんのradimics研究に注力する。	0.20	十分に目標を達成した。
社会貢献	0.30	県内、県外施設に必要な放射線科医の派遣を行う。日本医学放射線学会理事、肺癌学会理事、呼吸機能イメージング研究会代表などの学会活動の職務を全うする。	0.30	十分に目標を達成した。
管理運営	0.30	講座長、放射線科長、放射線部長としての管理業務を指揮する。	0.30	十分に目標を達成した。
診療	0.10	PET/CT検診読影、被検者説明を行う。専門研修医の単純X線写真の画像診断レポートのチェックを行う。	0.10	十分に目標を達成した。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	西村　正彦	所　属	医学科研究科　脳神経外科学講座	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	ポリクリ実習での「ニューロリハビリテーションの演習・講義を行う。機能的磁気共鳴画像に関する基礎知識・臨床診断、治療への応用について講義・演習を行う。医学科3年生基礎医学実習にて機能的MRI、ロボットスーツHALによるニューロリハビリテーションに関する講義・演習を行う。	0.25	ポリクリ実習での「ニューロリハビリテーションの演習・講義を行った。医学科3年生基礎医学実習にて、機能的磁気共鳴画像に関する基礎知識・臨床診断、治療への応用について講義・演習とロボットスーツHALによるニューロリハビリテーションに関する講義・演習を行った。
研究	0.35	科研費基盤（C）「脳機能ネットワークの観点から行うPusher現象の病態解析と新規治療法の開発」を推進する。経頭蓋直流電流刺激を用いた高次脳機能障害患者の新規治療法に関する研究を論文投稿する。ペランパネルと経頭蓋直流電流刺激による中枢性疼痛予防に関する研究論文を投稿する。ロボットスーツHALを用いた上肢機能障害のリハビリテーションとその効果に関する研究の論文投稿を行う。	0.35	科研費基盤（C）「脳機能ネットワークの観点から行うPusher現象の病態解析と新規治療法の開発」に関するデータ収集と解析を行った。経頭蓋直接電流刺激を用いた高次脳機能障害患者の新規治療法に関する研究の論文への投稿に向け、新たに追加解析を行った。ロボットスーツHALを用いた上肢機能障害のリハビリテーションとその効果に関する研究論文の投稿を準備している。ローヤルゼリー飲用者と健常高齢者の海馬機能解析を行った。健常者ボランティアの海馬機能及びfMRI−EEG
社会貢献	0.10	障害者介護給付費等審査会委員を担当する。 コメディカル養成校の非常勤講師として授業を行う。 放課後子ども教室推進事業に参画する。	0.10	浦添市障害者介護給付費等審査会委員を担当した。 コメディカル養成校の非常勤講師として脳神経外科分野、運動学の授業を行った。 那覇市立大道小学校、大名小学校の教育活動推進員として放課後子ども教室推進事業に参画した。沖縄県医師会脳神経外科分科会の事務局を担当した。
管理運営	0.10	リハビリテーション連絡委員を担当し、附属病院の診療環境の向上に貢献する。	0.10	リハビリテーション連絡委員を担当した。 HALを用いたリハビリテーションの定着に向け、環境整備、教育を附属病院リハビリテーション科と連携し行った。
診療	0.20	脳腫瘍や脳血管障害による運動機能障害を呈した患者の運動機能回復訓練を担当する。 機能的MRIでの脳活動計測や術中の電気生理学的神経機能モニタリングを担当する。	0.20	運動機能障害を呈する患者に対しサイボーグ型ロボットHALや経頭蓋直接電気刺激（tDCS）を用いた運動機能回復に向けたリハビリテーションを実施した。慢性疼痛患者、高次脳機能障害患者に対し、tDCSを用いたニューロモデュレーション治療を担当した。機能的MRIを用いた術前の運動機能、言語機能、記憶機能評価を行った。脳神経外科手術の神経機能モニタリングを担当した。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	外間　洋平	所　属	医学研究科　脳神経外科学講座	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	マイクロ顕微鏡実習を行う。 医学科3年次を対象に臨床解剖学講義を行う。	0.20	マイクロ顕微鏡実習を行った。 医学科2年次を対象に臨床解剖学講義を行った。
研究	0.20	放射線療法による脳損傷に対する高気圧酸素療法、内服治療の有用性について、diffusion tensor imagesを用いて脳白質繊維束の状態を定量評価し、解析し研究する。	0.20	放射線療法による脳損傷に対する高気圧酸素療法、内服治療の有用性について、diffusion tensor imagesを用いて脳白質繊維束の状態を定量評価し、解析し研究を進めている。
社会貢献	0.20	diffusion tensor images等の脳機能画像を用いた研究を行い、論文作成及び学会発表を行う。	0.20	diffusion tensor images等の脳機能画像を用いた研究を行い、論文作成及び学会発表の準備を進めている。
管理運営	0.20	放射線部運営協議会に参加する。	0.20	放射線部運営協議会に参加を心がけた。
診療	0.20	外来・病棟診療活動を行い、安全で適切な手術療法を推進する。脳外科病棟の安全性を高めるための看護師向けの講習会を開催する。	0.20	外来・病棟診療活動を行い、安全で適切な手術療法を推進した。脳外科病棟の安全性を高めるための看護師向けの講習会を開催した。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	古泉　英貴	所　属	医学部　眼科学講座	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	ポリクリ、クリニカルクラークシップ、研修医教育では受け身の講義や外来見学実習にとどまらず、手術助手や眼科検査、ウェットラボなどを通じ、より眼科学の魅力を体感できるようなカリキュラムを作成、実行する。眼科新入局員には新たに今年度より系統的なクルズスプログラムを開始、実行する。	0.20	教授自らが毎週ポリクリやクリニカルクラークシップの講義を担当し、眼科学の魅力やプライマリケアに関して親身に指導した。新入医局員に関しても系統的なクルズスプログラムを今年度より新たに作成し、滞りなく実行した。
研究	0.20	部局全体として公的および民間研究資金の獲得に最大限尽力する。また特に臨床に密接した独自性の高い研究を発案、推進する。国内外での学会発表を積極的に行い、同時に論文化を目指す。	0.20	古泉着任時は一つも申請されていなかった文科省科学研究費を8件申請できた。眼底イメージングを中心とした臨床研究を立ち上げ、演題採択率の非常に低い米国眼科学会において栄誉あるベストポスター賞を受賞した。
社会貢献	0.20	講演会や広報活動を通じ、医療関係者および住民に対する眼疾患の啓蒙を積極的に推進する。眼科地域医療の維持、発展にも従来以上に注力していく。	0.20	多数の講演会を開催し、医療関係者への眼疾患に対する啓蒙に尽力した。患者会でも講演を行い、地域住民に対する社会貢献に注力した。
管理運営	0.20	教授として部局内の統括を行うことに加え、複数の委員会委員のしての責務を全うする。	0.20	教授として医局内のマネージメントを行うと同時に、関連施設や地域のクリニックとの円滑な連携確立に尽力した。また、多数の委員会委員としての責務を全うした。
診療	0.20	臨床医として安全かつエビデンスに基づいた高いレベルの外来診療と手術加療に尽力する。同時に病院経営への貢献にも努力する。	0.20	高い技術とエビデンスに基づいた外来診療と手術加療を行うと同時に、病院経営への貢献にも努力した。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	中西　浩一	所　属	医学研究科　育成医学（小児科）講座	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	令和元年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	診療科長として全ての医局員の教育・学生支援活動の監督・指導を行い、適切に実施されるように配慮する。系統講義，ポリクリ指導，オスキー等につき，与えられた時間を活用して最大の教育効果が得られるよう，創意工夫し，実践する。問題解決型教育に取り組み，よりよい医療人育成に努める。可能な限り対話を重視し、個人のプレゼンテーション能力向上に努める。学内外における学生活動支援のための取組を積極的に実践する。	0.20	診療科長として全ての医局員の教育・学生支援活動の監督・指導を行い、適切に実施されるように配慮した。系統講義，ポリクリ指導，オスキー等につき，与えられた時間を活用して最大の教育効果が得られるよう，創意工夫し，実践した。問題解決型教育に取り組み，よりよい医療人育成に努めた。可能な限り対話を重視し、個人のプレゼンテーション能力向上に努めた。学内外における学生活動支援のための取組を積極的に実践した。
研究	0.20	診療科長として全ての医局員の研究活動の監督・指導を行い、適切に実施されるように配慮する。特に外部研究費の獲得において自ら積極的に取り組むと同時に医局員を指導する。成果を国内外の学会で積極的に発表し，可能な限り英文の論文にまとめる。臨床研究・試験に積極的に参加し，あらたなエビデンス創出に貢献する。厚生労働省の資金による臨床試験・調査に分担研究者として参加し，本邦のエビデンス創出に尽力する。	0.20	診療科長として全ての医局員の研究活動の監督・指導を行い、適切に実施されるように配慮した。特に外部研究費の獲得において自ら積極的に取り組むと同時に医局員を指導した。成果を国内外の学会で積極的に発表し，可能な限り英文の論文にまとめた。臨床研究・試験に積極的に参加し，あらたなエビデンス創出に貢献した。厚生労働省の資金による臨床試験・調査に分担研究者として参加し，本邦のエビデンス創出に尽力した。
社会貢献	0.15	診療科長として全ての医局員の社会貢献活動の監督・指導を行い、適切に実施されるように配慮する。地域における，講演等を積極的に引き受け，高度専門医療の普及に努める。小児・周産期医療において有識者として県・地域の活動に参加し，その目標達成に貢献する。地域の病院として，地域の小児医療に積極的に貢献する。地域の病院への人員派遣を通し地域医療に貢献する。厚生労働省等の活動、学会活動、ガイドライン作成などにに参画し貢献する。	0.15	診療科長として全ての医局員の社会貢献活動の監督・指導を行い、適切に実施されるように配慮した。地域における，講演等を積極的に引き受け，高度専門医療の普及に努めた。小児・周産期医療において有識者として県・地域の活動に参加し，その目標達成に貢献した。地域の病院として，地域の小児医療に積極的に貢献した。地域の病院への人員派遣を通し地域医療に貢献した。厚生労働省等の活動、学会活動、ガイドライン作成などにに参画し貢献した。
管理運営	0.20	診療科長として全ての医局員の管理運営活動の監督・指導を行い、適切に実施されるように配慮する。自らも求められる管理運営活動に積極的に取り組み、貢献する。関連諸部門と密に連携を保ち，本学業務が円滑に遂行されるよう努力する。積極的に医療安全の取り組みに発言、参加し、組織全体のリスク管理に貢献する。感染対策委員会委員としてその目標達成に向けて尽力する。入試関連役割分担にも積極的に参加するように努め，業務が遅滞なく進行するよう努力する。	0.20	副院長として、多数の委員会などにおいて尽力した。診療科長として全ての医局員の管理運営活動の監督・指導を行い、適切に実施されるように配慮した。自らも求められる管理運営活動に積極的に取り組み、貢献した。関連諸部門と密に連携を保ち，本学業務が円滑に遂行されるよう努力した。積極的に医療安全の取り組みに発言、参加し、組織全体のリスク管理に貢献した。入試関連役割分担にも積極的に参加するように努め，業務が遅滞なく進行するよう努力した。
診療	0.25	診療科長として全ての医局員の診療活動の監督・指導を行い、適切に実施されるように配慮する。日本小児科学会専門医として，一般小児科で最善の診療を心がける。日本腎臓学会専門医・指導医として小児腎臓病診療にあたり，高度専門的医療を行う。また，積極的に臨床研究・試験を遂行する。病院経営を理解し積極的に協力する。希少疾患では全国の施設と協力し，積極的に診断を推進し，高度先端医療を行う。国内外関連学会に積極的に参加・発表し，診療にフィードバックする。	0.25	診療科長として全ての医局員の診療活動の監督・指導を行い、適切に実施されるように配慮した。日本小児科学会専門医として，一般小児科で最善の診療を心がけた。日本腎臓学会専門医・指導医として小児腎臓病診療にあたり，高度専門的医療を行った。また，積極的に臨床研究・試験を遂行した。病院経営を理解し積極的に協力した。希少疾患では全国の施設と協力し，積極的に診断を推進し，高度先端医療を行った。国内外関連学会に積極的に参加・発表し，診療にフィードバックした。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	知念安紹	所　属	医学部　育成医学講座	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.15	M3学生の講義（遺伝先天代謝異常）、各種試験問題作成と管理、倫理討論会の指導者、OSCE医療面接の試験監督、病棟におけるポリクリ学生の指導と講義・総括、研修医の指導、医員の発表・論文の指導、臨床遺伝専門医の研修の医師指導、ポリクリ学生・研修医の進路相談、大学2年生の指導教官としての役割	0.15	大学2年生の指導教官として各個人の面談を行い、LINE交換による状況変化の把握に努めている。M3・M4学生の講義（遺伝先天代謝異常・小児症候学）、テスト問題作成、OSCE医療面接、倫理討論会での学生指導、病棟におけるポリクリ学生、研修医の指導を実施した。ポリクリ学生には症例呈示で鑑別疾患など列挙させて討論を行っている。臨床遺伝専門医の研修医師（先進ゲノム1名、産婦人科1名、小児科2名、地域医療部1名）の指導を実施している。
研究	0.25	沖縄県の希少・未診断疾患イニシアチブ(IRUD)研究班の診断委員会月1回開催、遺伝子解析結果と症例検討、ムコ多糖症における酵素補充療法の効果、沖縄県の新生児タンデムマススクリーニングによる有機酸代謝異常・脂肪酸代謝異常症の疾患予防について、線維芽細胞の継代とバイオマーカー測定の確立、環境省の子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査）の詳細調査	0.22	IRUD-Pにおける毎月の沖縄県IRUD診断委員会の開催運営、Cornelia de Lange症候群の論文投稿、ARC症候群の治療、沖縄県新生児マススクリーニングへ新たに甲状腺ホルモンfT4導入、新生児の遊離カルニチンの血中濃度の意義、沖縄県の新生児マススクリーニング体制にて早期発見治療を中部地区医師会と連携して行っている。線維芽細胞の継代培養と保存の確立を行った。
社会貢献	0.05	沖縄県の新生児マススクリーニング連絡協議会の運営とタンデムマス支援体制を構築すること、新生児マススクリーニングで本年度新規導入されるfT4検査体制の構築、Down症候群の親の会に対するサポート活動、骨形成不全症の親の会に対するサポート活動、ムコ多糖症の親の会に対するサポート活動、第46回日本マススクリーニング学会の大会長ならびに沖縄県開催運営を行う。	0.10	第46回日本マススクリーニング学会の大会長として沖縄県市町村自治会館にて2019年11月22・23日開催運営を行った。新生児マススクリーニングのタンデムマス・スクリーニングの運営体制を沖縄県連絡協議会とともに維持すること、ムコ多糖症の親の会に対する研究会サポート活動、Fabry病の患者会の支援
管理運営	0.05	がんゲノム医療連携、診療情報管理センター運営委員会、医療機器安全専門委員会、NSTのサポートおよび6西病棟会議、副医局長としての育成医学講座運営のサポート	0.03	がんゲノム医療連携、診療情報管理センター運営委員会、医療機器安全専門委員会、NSTのサポートおよび6西病棟会議(毎週火曜日）、副医局長を行っている。
診療	0.50	新患・先天異常・先天代謝異常の外来および入院患者の診療、他病院および他科から紹介のある遺伝性疾患について遺伝カウンセリングを実施している。	0.50	新患・先天異常・先天代謝異常の外来および入院患者の診療、がんゲノム医療では院内患者の検査前の遺伝カウンセリングを実施している、他病院から紹介となったクライアントについても遺伝カウンセリングを実施している。HBOCについて産婦人科と共同し、遺伝カウンセリングを担当している。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	浜田　和弥	所　属	医学研究科　育成医学講座	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	医学部講義（小児アレルギー），研修医・学生向けレクチャーの定期的な実施	0.20	医学部講義（小児アレルギー），研修医・学生向けレクチャーの定期的な実施
研究	0.25	臨床研究，並びに症例報告などの論文執筆，各種学会（日本アレルギー学会，小児アレルギー学会，小児リウマチ学会など）参加・発表	0.20	臨床研究，各種学会（日本アレルギー学会，小児アレルギー学会，小児リウマチ学会など）参加・発表
社会貢献	0.10	学外講義，講演，学校健診，乳児健診などへの参加	0.15	学外講義，講演，学校健診，乳児健診などへの参加
管理運営	0.05	救急部運営委員会，児童虐待防止委員会，放射線部運営委員会，機能画像センター運営員会	0.05	救急部運営委員会，児童虐待防止委員会，放射線部運営委員会，機能画像センター運営員会，臨床研修センター（医科部門）
診療	0.40	附属病院小児科外来診療，入院患者（腎，膠原病，アレルギー領域）診療，小児アレルギー専門診療	0.40	附属病院小児科外来診療，入院患者（腎，膠原病，アレルギー領域）診療，小児アレルギー専門診療
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	鈴木幹男	所　属	大学院医学研究科　耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	学生の系統講義，倫理討論、教育評価委員を担当する。ポリクリニック，クリニカルクラークシップで学生教育を行う。M4の指導教官として適切な介入指導を行う。学位指導を行い，博士論文が完成するように指導する。	0.20	学生の系統講義，倫理討論、教育評価委員を担当した。ポリクリニック，クリニカルクラークシップで学生教育に多くの時間を費やした。M4の指導教官として適切な介入指導を行った。3名の学位取得を指導した。
研究	0.20	科研費、委任経理金を用いて頭頸部癌の研究を行う。また他大学との共同研究を実施する。	0.20	科研費、委任経理金を用いて頭頸部癌の研究を行った。また浜松医大と共同研究を実施した。全国難聴コンソーシアム研究に尽力した。
社会貢献	0.10	沖縄県地方部会長，頭頸部外科学会理事、日本気管食道科学会理事など役職に応じた活動を行い，公益に寄与する。まだ日本頭頸部外科学会総会、手術支援システム・ナビ研究会を開催し、公益に資する。	0.20	沖縄県地方部会長，頭頸部外科学会理事、日本気管食道科学会理事など役職に応じた活動を行い，公益に寄与した。日本頭頸部外科学会総会、手術支援システム・ナビ研究会を沖縄県で開催した。
管理運営	0.20	医療安全担当副病院長として病院運営に尽力する。附属病院移転推進室長、各種委員会委員，委員長として大学，医学部，附属病院の各所で機能向上に寄与する。	0.30	医療安全担当副病院長として病院運営に尽力した。附属病院移転推進室長、各種委員会委員，委員長として大学，医学部，附属病院の各所で機能向上に寄与した。
診療	0.30	診療科長として，充分な診療実績があげれるように人員配置、働き方改革を進める。	0.10	診療科長として，充分な診療実績があげれるように人員配置、働き方改革を進めた。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	真栄田裕行	所　属	医学研究科 耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	学部生に対する耳鼻咽喉科一般の系統講義 臨床実習生に対する診察・検査・手術手技等の実技指導 当科所属の研修医・専修医・専門医に対する臨床実技指導 医局員に対する総合的指導	0.25	学部生に対する耳鼻咽喉科一般の系統講義 臨床実習生に対する診察・検査・手術手技等の実技指導 当科所属の研修医・専修医・専門医に対する臨床実技指導 医局員に対する総合的指導
研究	0.20	外部資金の獲得（科研費、財団、その他の公的資金） 頭頸部癌に関する新規研究分野の開拓 頭頸部癌手術手技に関する研究 学会発表や学術誌への投稿	0.15	外部資金の獲得（科研費、財団、その他の公的資金） 頭頸部癌に関する新規研究分野の開拓 頭頸部癌手術手技に関する研究 学会発表や学術誌への投稿
社会貢献	0.20	学校・住民健診事業 耳の日・鼻の日・市民公開講座等の企画・実施 主催学会に関連した活動（資金獲得、広報等）	0.20	学校・住民健診事業 耳の日・鼻の日・市民公開講座等の企画・実施 主催学会に関連した活動（資金獲得、広報等）
管理運営	0.20	病院の各種委員会委員としての活動 医局・外来・病棟の総合的管理・運営 主催学会に関連した活動（企画、立案、運営等）	0.20	病院の各種委員会委員としての活動 医局・外来・病棟の総合的管理・運営 主催学会に関連した活動（企画、立案、運営等）
診療	0.20	頭頸部癌患者に対する集学的治療 離島診療の推進	0.20	頭頸部癌患者に対する集学的治療 離島診療の推進
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	山下　懐	所　属	大学院医学研究科　耳鼻咽喉・頭頸部外科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.10	臨床実習生の要望などを積極的に聴取し、指導にあたる。	0.10	臨床実習生の要望などを積極的に聴取し、指導にあたった。
研究	0.30	症例報告や統計、基礎研究など学会での報告、論文発表を行う。	0.30	科研費を取得し研究を進めた。日本耳鼻咽喉科学会、日本鼻科学会で口演した。
社会貢献	0.05	耳の日、鼻の日講演会などへの参加につとめ、沖縄県民の耳鼻咽喉科領域疾患への関心を高める。	0.05	耳の日、鼻の日講演会などへの参加につとめ、沖縄県民の耳鼻咽喉科領域疾患への関心を高めた。
管理運営	0.05	入試関連業務などへの参加。	0.05	入試関連業務などへの参加の予定あり。
診療	0.50	外来、手術など診療活動。	0.50	外来、手術など診療活動を行った。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	田中　克典	所　属	大学院医学研究科　耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.15	医学部4年次の講義や、臨床実習の学生の指導を、学生が興味をもち自発的に学習できるように行う	0.15	4年次の講義では、耳鼻咽喉科疾患でのTBLを行った 臨床実習の学生に手術中など、説明をするなどした
研究	0.20	頭頸部癌についての臨床研究を行い、学会発表、学会誌投稿など行う	0.20	15th Japan-Taiwan Conference on Otolaryngology-Head and Neck Surderyでポスター演題を発表した またそれについて、論文作成中
社会貢献	0.10	鼻の日、耳の日の市民講演会に参加し、市民の啓もうに努める	0.10	鼻の日講演会で市民向けの質問コーナーを受け持った
管理運営	0.10	入試関連業務に参加する	0.10	センター試験の監督補助を行った
診療	0.45	頭頸部癌の手術や外来診療などを行う	0.45	頭頸部癌の外来診療と、手術を行った
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	池上　太郎	所　属	大学院医学研究科　耳鼻咽喉・頭頸部外科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	大学院生への研究指導およびサポートを積極的に行う。また学部生の医科学研究における研究指導を行う。	0.30	大学院生の指導および学部生への研究指導を行うことができた。
研究	0.65	耳鼻科領域、特に頭頸部腫瘍の研究を推進し、国際誌に論文を発表し、また学会においても発表を行う。	0.65	本年は国際専門誌に1編、国内専門誌に1編、論文を発表した。また国際学会で2題発表した。
社会貢献	0.03	研究で発見したことは速やかに公表し、講演会などを通して社会還元する。	0.03	鼻の日に一般向けの鼻の講演会を手伝った。また静岡大学教育学部附属静岡中学校で中学生向けに研究についての講演を行った。
管理運営	0.02	委員会委員への参加。	0.02	委員会委員として担当する業務を遂行した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	近藤　毅	所　属	医学研究科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	1. 医学部学生に対し、精神医学系および救急医療の系統講義を行うとともに、臨床実習における総括を行う。 2. 医学研究科学生に対し、精神病態医学、心身医学、社会医学に関連する講義・演習・実習を行うとともに、指導教員として研究指導にあたる。	0.25	1. 医学部学生に対し、精神医学系4コマ・救急医療1コマの系統講義、倫理総合討論・TBL各1コマを担当し、臨床実習では総括を行った。 2. 医学研究科大学院生に対し、講義・演習・実習を行い、指導教員として6名の研究指導を行った。また、社会医学概論のコーディネーターを担当した。
研究	0.25	1. 専門領域である精神薬理学的研究で外部資金を獲得し、それらに関連した講演・学会発表を行うとともに、原著・総説等で論文発表する。 2. 臨床精神医学の一般領域における研究に関連した講演・学会発表を行うとともに、原著・総説等で論文発表する。	0.25	1. 臨床精神医学および臨床心理学領域の英文原著3編の作成に関与し、成果を日本臨床精神神経学会等にて発表した。 2. 日本児童青年精神医学会で総会会長として児童思春期精神医学領域に関する特別講演を行った。 3. H29からの基盤研究C課題として抑うつ性混合状態に関する研究に取り組んでいる。
社会貢献	0.10	1. 精神疾患に対する偏見の改善や認識の向上に向けた啓発活動を実践する。 2. 専門家として、学外の委員会への参加を要請された場合に、委員として要請に応える	0.10	1. 沖縄県自殺対策連絡協議会・沖縄県発達障害連絡協議会の委員および沖縄県いじめ防止対策審議会の委員長を務めた。 2. 沖縄科学技術大学院大学人対象研究審査委員会委員長を務めた 3. 日本児童青年精神医学会総会を主催し、会長として、同学会総会の管理・運営の責務を負った。
管理運営	0.15	1. 医学研究科精神病態医学講座教授および附属病院精神科神経科科長・基幹型認知症疾患医療センター長として教室および外来・病棟・部門の管理運営を行う。	0.15	1. 医学研究科精神病態医学講座教授および附属病院精神科神経科科長として教室および外来・病棟の管理運営を行った。 2. 基幹型認知症疾患医療センター長として本センターの管理・運営に携わった。
診療	0.25	1. 琉球大学医学部附属病院の精神科神経科にて新患外来と専門外来（児童思春期外来）を担当し、総合診療科において心身症を中心とした患者の診療を行う。 2. 琉球大学医学部附属病院の精神科神経科の入院患者を対象とした総回診およびケース・カンファランスを行い、初期・後期臨床研修医の診療力の向上を図る。	0.25	1. 琉球大学医学部附属病院の精神科神経科にて新患外来と専門外来（児童思春期外来）を担当し、総合診療科では心身症を中心とした患者の診療を行った。 2. 琉球大学医学部附属病院の精神科神経科の入院患者を対象とした総回診およびケース・カンファランスを行い、臨床研修指導を行った。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）						
名　前	島袋盛洋		所　属	医学部　医学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	臨床研修医および医学部学生への精神医学の講義および臨床現場における研修・実習の場面で実地指導を行う	0.20	臨床研修医および医学部学生への精神医学の講義および臨床現場における研修・実習の場面で実地指導を行った。
研究	0.10	児童精神医学領域において、症例報告および観察研究を行い、成果を学会等にて発表する	0.00	行わなかった。
社会貢献	0.10	地域住民および地域の精神科関連の専門職に対して　精神疾患患者に対する知識について啓発的介入を行う	0.10	自殺予防対策の講習会を3回行った。
管理運営	0.10	所属診療科において医局長として診療科長の指導監督の元で診療科の管理運営を行う	0.20	医局長として診療科の管理運営の一部を担当した。
診療業務	0.50	琉球大学医学部附属病院における精神科外来および病棟において、一般患者における診療に従事するとともに、児童思春期専門外来を担当し、県内における児童思春期の専門的治療を行う。	0.50	全般的な診療業務を行った。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）	□ 学外公表に同意しない。　□ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	新里　輔鷹	所　属	医学部医学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.10	医学部の学生の系統講義を担当する。	0.10	M2学生の系統講義を担当した。神経症についての講義を行った。またポリクリ前オスキーの評価者及び、面接実習のファシリテータをおこなった。ポリクリ学生に対してはアルコール依存症についての講義を行っている。
研究	0.10	抑うつ性混合状態についての研究を行う。	0.30	本年度は日本精神神経学会にて抑うつ性混合状態に関する演題発表を行った。また九州精神神経学会でも後期研修医に指導を行いながら演題発表を行っている。報告の内容についてはpubmed掲載国際誌であるNeuropsychiatric Disease and Treatment(impact factor：2.228)にて英語論文として発表した。
社会貢献	0.10	離島への診療応援を行う。	0.10	精神保健指定医が一人しかいない医師過疎地域である宮古病院へ月一の外来応援を精神保健指定医として継続している。また薬剤師向けの勉強会にて統合失調症の治療についての講演を行った。
管理運営	0.50	病棟医長として医局運営を行う。	0.30	外来医長として外来運営を行い地域医療との連携を図り、積極的に重症患者の診察を行う外来運営を行った。リスクマネージャーとしてもインシデント発生時のリスク管理を行っている。また年度途中からは医薬品安全管理専門委員会の委員も兼務している。
診療	0.20	精神科医として大学病院での診療にあたる。	0.20	日本精神神経学会専門医・指導医として後期研修医の指導と並行して、自身も入院患者、外来患者、コンサルテーションリエゾン医学の責任者、グループ長として当科の中心的な立場で診療を行っている。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	座間味　優	所　属	医学部　医学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	講義では「リエゾン精神医学」の分野を実臨床と国家試験内容を意識して行う。ポリクリ・クリクラ学生に対しては、実際の症例を通して、学生レベルを超えない範囲の指導と、今後医療者になった時に役立つ、患者様とのコミュニケーションのスキルを指導していきたい。	0.25	M5 総合講義では、「ひきこもり 」をテーマに精神医学と社会問題を関連付けた講義を行った。「ひきこもり 」の精神病理を中心に学生にも理解できるように噛み砕いて講義をした。系統講義は1/29予定である。臨床実習では、新患へ陪席した学生へ、症例のポイントや面接時の工夫など精神科ならではの視点を指導した。また、専攻医への指導やコンサルtーションを受けるなど専攻医教育を行なった。
研究	0.01	臨床研究のテーマを模索し、研究計画の立案と倫理審査に向けた準備を行う。	0.05	研究グループのミーティングに参加し、臨床研究テーマを模索した。「混合性抑うつ状態」をテーマに、質問紙DMX-12を使用し、リスク因子の抽出や生物学的因子の関連を研究することとした。2020年度より大学院へ進学し、研究の基礎を学ぶことを決めた。
社会貢献	0.01	現時点では特に予定されていないが、地域住民向けに精神疾患の知識普及につながる講演会の依頼等があれば受けていきたい。	0.05	地域住民へ向けた講演会等はなかった。東日本大震災の復興支援として、岩手県へ派遣され、地域貢献を行なった。
管理運営	0.24	診療コアメンバーとして、医局-病棟-外来の連携がスムーズにとれるようなシステム作りを行っていきたい。	0.25	医局-病棟ー外来の連携を中心としたシステム作りを行なった。グループ制を立案、2020年1月より試験導入した。病棟医長不在時の代役として、ベットコントロールを行なった。
診療	0.49	精神疾患全般に対する知識・スキルを向上させるとともに、本年度はサブスペシャリティとして児童思春期において、発達障害のみならず家族内力動が問題となる症例に対する知識を深め面接を行っていきたい。	0.40	精神疾患全般の診療を行い、全般的な知識・スキルが向上した。しかし、病歴・症候に偏りがちであったため、次年度は心理検査やNIRSなども積極的に利用しながら、客観性の高い医療に努めたい。サブスペシャリティとして児童思春期外来を担当した。応用行動分析学を用いて両親への指導助言を行えた反面、学校との連携が弱かった。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	前田　士郎	所　属	先進ゲノム検査医学講座	職　名	

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	学部学生のゲノム医学教育を通じてヒトゲノム研究の臨床的意義について理解させる。4年生の教育担当学生について全員の全単位取得を目指す	0.25	学部学生のゲノム医学教育を通じてヒトゲノム研究の臨床的意義を伝えた。4年生の教育担当学生については全員が全単位取得見込みである
研究	0.30	沖縄県におけるゲノム研究の基盤となる沖縄バイオインフォメーションバンクの構築を図る。ヒトゲノム関連の研究成果を論文化する	0.30	沖縄県におけるゲノム研究の基盤となる資源構築に向けて資金を獲得し、DNA血漿、健診情報からなる資源構築を行った。今年度は約2400名の試料収集を達成し、総同意者数は約15000人となった。バンクの基盤整備として試料保管解析システム導入のための補正予算を獲得した。ヒトゲノム関連の研究成果をNature Genetics, Diabetes詩に発表した。また、沖縄県民約6000名の全ゲノムSNP解析
社会貢献	0.15	沖縄県におけるゲノム事業の必要性、有用性の啓蒙を謀り、将来の健康長寿社会構築の基盤を形成する。同時に円滑な検査輸血業務の遂行により地域医療への貢献に努める	0.15	沖縄県先端医療実用化推進事業を通じて沖縄県におけるゲノム事業の必要性、有用性の啓蒙のためシンポジウムをおこなった。第14回九州遺伝子診断研究会を那覇市において開催しゲノム医療を中心に遺伝子検査に関する情報発信を行った。また各種講演会での講演を行った
管理運営	0.30	先進ゲノム検査医学講座教授としてまず人材獲得と研究環境整備に努める。また琉球大学附属病院検査・輸血部部長として迅速正確な検査輸血業務が遂行されるよう管理運営を行う	0.30	先進ゲノム検査医学講座教授として研究基盤整備をすすめ、メディカルゲノムリサーチコーディネーター3名の人員確保を行った（2名は学会認定でシニア認定に移行予定）。また琉球大学附属病院検査・輸血部部長として迅速正確な検査輸血業務が遂行されるよう管理運営を行い国際認証ISO15189の維持管理を行った。さらに日本輸血細胞治療学会認定医制度施設認定を取得した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	今村　美菜子	所　属	医学研究科　先進ゲノム検査医学講座	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.10	M2における遺伝医学の講義および実習、M3における基礎配属、M4-M5臨床検査医学ポリクリにおいて、基礎的な医学知識を習得させると同時に、最新の研究成果の紹介等により常に最先端の医学知識身につける姿勢を持てるよう指導する。4年次学生(11名)の指導教官および医学部ボードセイリング部顧問として、学生生活全般におけるサポートを行う.	0.10	M2における遺伝医学の講義および実習、M3の基礎配属、M4-M5臨床検査医学ポリクリでの指導、4年次学生（11名）の指導教官としての学生生活全般のサポートについては当初の目標どおり適切に指導を行えた。それに加え、M2における内科学の講義で糖尿病のゲノム研究の講義を担当した。また、医学部ボードセイリング部顧問として部長との定期的な(月に1回)面談通じて特に競技・練習における安全指導に注力した。
研究	0.55	沖縄バイオインフォメーションバンクの資源を活用したゲノム研究を推進する。国内外の学会において最新の研究成果を報告する。平成29年度に採択された基盤研究（C）について研究を遂行する。臨床検査輸血部において、検査技師を中心とした研究の指導およびサポートを行う。	0.55	沖縄県のヒトゲノム解析拠点となる沖縄バイオインフォメーションバンクの構築および維持(ゲノム・血漿サンプルの収集、サンプル管理システムの構築)に貢献した。29年度に採択された基盤研究（C）については申請した実験計画に沿った研究を遂行し、その成果は国際学会で採択され発表した（欧州糖尿病学会、OISTjoint symposium)。また検査輸血部では、抄読会や学会発表指導等を通じた研究の指導、サポートを行った。さらに海外との共同研究の共著論文が1報採択された （Diabetes）
社会貢献	0.05	講演活動を通じて最新のゲノム医学の成果を広く共有する。	0.05	高校生を対象とした医学部体験授業（８月５日～９日）のプログラムの一環として、ゲノム研究についての講演を行った。
管理運営	0.30	臨床検査輸血部において、検体検査全般の管理運営、検体検査の判断の補助に携わる。ISO15189 認定維持活動において検査室管理主体としての取り組みを行う。リスクマネージャーとして附属病院、検査輸血部の安全管理を行う。発明審査委員会委員および医学教育評価委員としての活動を行う。	0.30	検査・輸血部においては、検査・輸血部副部長およびリスクマネージャーとして検体検査全般の管理運営、検体検査の判断の補助、安全管理に携わった。また発明審査委員会委員として毎月開催される発明審査委員会での審議を中心とした活動を行った。当初の目標以外に、がんゲノム医療部門員として毎月開催される会議を中心とした活動も行った。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	松波　雅俊	所　属	大学院医学研究科先進ゲノム検査医学講座	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	学内のバイオインフォマティクス解析普及に向けて支援をおこなう。 基礎配属学生を指導する。 遺伝医学の授業の一部を担当する。	0.30	学内でバイオインフォマティクス研究の支援をおこなった。また、理学部や医学部の大学院生のコンピュータ解析を指導し、研究を支援した。
研究	0.50	現在、支援を受けている科研費と合わせて、さらなる外部資金の獲得を目指す。沖縄バイオインフォメーションバンクプロジェクトのサンプル収集・ゲノム解析を進める。	0.50	代表研究者として成茂動物科学振興基金に採択された。また、Obiプロジェクトの成果を国内外の学会で報告した。学術論文が4報受理された。
社会貢献	0.10	沖縄県内においてOkinawa Bioinformation Bank Projectの啓蒙をおこない、研究成果の論文化を目指す。	0.10	Okinawa Bioinformation Bank Projectで収集したサンプルの解析を進め、プロジェクトの啓蒙をおこなった。
管理運営	0.10	現在、運営中のMiseqシーケンサーと1分子シークエンサーSequelおよびコンピュータサーバの管理運営をおこなう。	0.10	Miseqの管理を行い、データ解析を支援した。また、1分子シークエンサーSequelとコンピュータサーバの管理を支援した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	野口　洋文	所　属	医学部　医学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	シラバスに従って授業を行う。受け持ち学生と定期的に面会を行い、学生の支援を行う。	0.20	発生再生医学の関してはオーガナイザーとしてシラバス作成、授業の実施、および本試験・再試験を実施した。それ以外の担当の授業は、シラバスに従って授業を行った。受け持ち学生と定期的に面会を行い、学生の支援を行った。
研究	0.30	幹細胞を用いた研究、膵島移植に関する研究を行い、論文発表を行う。研究費獲得に向け、日本学術振興会研究費、AMEDおよび民間の研究費募集に申請を行う。	0.30	幹細胞を用いた研究、膵島移植に関する研究を行い、論文発表を11報行った。日本学術振興会研究費、AMEDおよび民間の研究費募集に申請を行い、合計約1000万円の研究費を獲得した。
社会貢献	0.20	細胞培養加工施設（CPC）を使用した治療が行えるよう、臨床の先生の支援を行う。学会・論文発表を積極的に行い、研究内容を社会へ公開していく。	0.20	細胞培養加工施設（CPC）の管理・運営を行った。企業のCPC事業に関する助言をおこない、大学内ベンチャーが同CPC内で開発できる環境を整えた。また、形成外科が実施している再生医療の支援を行った。学会・論文発表を積極的に行った。
管理運営	0.30	各種委員会に定期的出席する。講座の管理運営を行う。再生医療研究センターのセンター長として、細胞培養加工施設（CPC）の管理運営を行う。	0.30	6種の委員会に所属し、定期的に出席した。今年度の計画通り、講座（教官1名、技術職員1名）および再生医療研究センター（技術職員3名）の管理運営を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	潮平　知佳	所　属	大学院医学研究科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	医学科学生の講義およびその補佐、また講座所属学生への研究指導を行う。産官学関連事業において、その職員に対する技術指導および補佐をする。教育連絡主任業務を行う。	0.20	医学科学生の講義、試験および基礎研究指導を行った。当講座所属の医学科学生の講義およびその研究指導を行った。産官学関連事業において、その職員に対する技術指導および補佐をした。
研究	0.60	外部資金獲得実績として、日本学術振興財団の科学研究費基盤（C）主任研究者および、沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業において再委託経費としての外部資金獲得実績。東京大学および沖縄高専とそれぞれ共同研究を取り組む。英語論文の作成および発表を行う。学内外の学会および研究会または、講演、講習会などに積極的に参加する。	0.60	日本学術振興財団の科学研究費基盤（C）主任研究者および、沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業において再委託経費としての外部資金獲得し、東京大学および沖縄高専とそれぞれ共同研究に取り組んだ。また英語論文の作成および発表を行った。学内外の学会および研究会または、講演、講習会などに積極的に参加した。
社会貢献	0.10	産官学関連事業の推進への貢献。講座の学内外の研究会および講演会活動に貢献する。学会発表および学会誌への論文投稿を行う。学外の学生向けにボランティアで講義を行う。	0.10	産官学関連事業の推進に貢献した。講座の学内外の研究会および講演会活動に貢献した。学会発表および学会誌への論文投稿を行った。学外の出張講義で高校生にボランティアで講義を行った。
管理運営	0.10	産官学関連事業の管理運営業務を行う。部局内の劇物毒物化学薬品管理業務。入試関連業務および各種委員会。医学部教育連絡主任業務を行う。	0.10	産官学関連事業の管理運営業務を行った。部局内の劇物毒物化学薬品管理業務、入試関連業務および学部学生の試験管理業務、医学部教育連絡主任業務を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	高山　千利	所　属	医学研究科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	・医学研究科博士課程・修士課程の講義・演習を行い、医学研究科大学院生の教育を行い、研究をサポートする。 ・医学部医学科1年次、2年次の学生に対して、医学概論、分子細胞生物学、組織学、神経解剖学、発生学の講義・実習を行い、基礎医学力の向上に努める。 ・医学部3年次学生に基礎研究を指導し、研究者マインドの涵養に努める。 ・5年次の指導教員として、学生10名の生活面・学修面を指導・監督する。 ・積極的に問題（学業・精神面）を抱える学生への介入を行い、学力の向上、医師となるための技術の向上に努める。	0.30	・医学研究科博士課程・修士課程の講義（4回）と演習を行った。 ・医学部医学科1年次・2年次の学生に対する講義・実習を行った。TBLにて、皮膚科、第2内科、精神科とともに垂直的統合授業を実践し、アクティブラーニングを積極的に進めた。 ・医学部3年次学生4名への研究指導を行い、次年度の発表の準備を行っている。 ・昨年度研究室配属にて指導した学生の成果を元に学術集会にて発表した（発表者清水）。 ・5年次の指導教員として、学習面・精神面の指導・監督を行った。個別相談ならびに学年別懇談会を開催した。 ・学習面・精神面に悩みを抱える学生のメンターとなって研究室に出入りを許可し、個別指導を行った。個別指導を行った学生2名は無事に単位を取得した。 ・グローバルサイエンスキャンパス事業（JST）において、高校生1名の研究指導を行い、全国発表会において発表させた。さらに、同じ成果は日本生理学会におて発表予定である。
研究	0.40	・博士課程を単位取得退学した非常勤講師（1名）博士取得まで指導する。 ・博士課程（2名）の研究を指導する。4年次学生の博士論文および学位審査会に向けての指導を行うとともに、1年次学生の研究指導を行い、学会発表を1回行わせる。 ・特命助教、非常勤講師、学部学生とともに研究を行い、その成果を全国集会で3回以上発表し、学位論文を含め、責任著者として学術論文を3報以上を受理させる。 ・准教授、助教の研究に助言を与え、論文の発表に協力する。 ・学内・学外の研究者と共同研究を進め、期間内に共著論文の作成に協力する。 ・講座として、5報の原著・総説論文を受理する。 ・文部科学省科学研究費補助金を新規申請する。 ・沖縄県内企業との共同研究を行い、新規の研究資金に応募する。	0.40	・非常勤講師（単取得退学者）の学位論文の作成を指導し、受理された（責任著者が高山）。本年度中には学位取得予定。さらに、昨年度科学研究費補助金の申請をサポートし、今年度「若手研究」に採択された。 ・博士課程1、4年次大学院生への研究指導を行い、学術集会にて成果を2回発表させた。 ・特命助教・非常勤講師、学部学生とともに研究を行い、上記の学位論文を含む3編の論文（原著論文2編：IF3．2，IF3．0、本のチャプター1章：いずれも責任著者が高山）が受理された。そのうち原著論文の1編は表紙に採択された。責任著者の3報は満たしたが、研究室として目標の5編には届かなかった。 ・文部科学省科学研究費補助金（基盤研究C）ならびに民間の研究助成金に1件申請した。 ・民間企業1社との共同研究契約を継続し、商品化への準備を進めている。・
社会貢献	0.05	・公益財団法人　沖縄県医科学財団の専務理事として、理事会、評議会、専門部会に参加し、財団の管理運営を行うとともに、沖縄県の医学水準の向上に寄与する。 ・医学教育評価機構の評価委員、財務委員として、全国の医学部の医学教育水準の向上に寄与する。	0.05	・公益財団法人　沖縄県医科学財団の専務理事として、理事会、評議会、専門部会に参加し、財団の管理運営を行うとともに、沖縄県の医学水準の向上に貢献した。 ・医学教育評価機構の評価委員、財務委員に加えて、研修委員会員にも就任し、機構の財務管理、評価方法の見直しを含めて全国の医学教育水準の向上に貢献した。 ・OISTの動物委員会委員としてOISTにおける動物実験の適正化に寄与した。
管理運営	0.25	・分野別認証評価機構の評価を受けて、カリキュラム、学生評価法、教育プログラムの評価・改訂の仕組みなどを議論し、医学教育全体に改善案を提示する。 ・教育研究評議会委員として、大学運営に関与する。 ・全学的な教育改革(特に入試改革）の取り組みに参画する。 ・高大接続の取り組みに関与し、沖縄県全体の教育水準の向上に寄与する。￥ ・医学部附属動物実験施設長（兼全学動物実験委員長）として組織の管理・運営・改組、予算要求を行い、琉球大学における動物実験を用いた研究が発展し、多くの業績が出せるよう努める。前年度の業績を上回るよう努力する。 ・医学部・医学研究科教授会メンバー、医学部・医学研究科の管理運営に参加する。 ・学務委員会、教務委員会など学科内、研究科内の委員会に参加し、大学院、医学部医学科の教育・研究環境整備に努める。	0.25	・分野別認証評価機構の評価を受けて、琉球大学の医学教育全体の改善の方向性を示し、年次報告書を作成した。 ・教育研究評議会委員として、大学運営に関与した。 ・高大接続の取り組みに関与し、沖縄県全体の教育水準の向上に貢献した。グローバルサイエンスキャンパス事業では運営委員として、JST事業の運営に寄与した。医学部体験学習を主導し、高等学校側の評価も高く、メディアにも大きくとりあげられた。 ・医学部附属動物実験施設長（兼全学動物実験委員長）として組織の管理・運営・改組、予算要求を行い、琉球大学における動物実験を用いた研究が発展し、昨年を上回る動物実験関連の行政が現れた。 ・医学部・医学研究科教授会メンバー、医学部・医学研究科の管理運営に参加する。 ・学務委員会、教務委員会など学科内、研究科内の委員会に参加し、大学院、医学部医学科の教育・研究環境整備に努める。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	清水　千草	所　属	医学研究科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	医学部1年次学生に「分子細胞生物学」、「人体の構造と機能」の講義を行う。 医学部1年次学生に対し、「組織学実習」の講義・実習を行う。 医学部2年次学生に対し、「神経科学」の講義・実習を行う。 医学部3年次学生に対し、「医科学研究」の指導を行う。 医学研究科博士課程の学生に対して、コース共通科目、選択科目の講義・実習等を行う。 沖縄リハビリテーション学院、沖縄統合医療院、SOLAに対し、神経解剖学の実習を行う。 那覇市立看護学校、消防学校、歯科衛生士学校について、人体解剖学の実習を行う。	0.35	「分子細胞生物学」（医学部1年）：小テストを実施し予習の確認を行った後、授業を行った。　「人体の構造と機能」（医学部1年）：では、組織構築が生体機能と結びつくことを意識した授業を心掛け、TBLを行った。 「組織学実習」（医学部1年）：では、「人体の構造と機能」で学んだ知識とリンクするよう指導した。顕微鏡とスケッチを試験として取り入れている。 「神経科学」（医学部2年）では、自学自習を進めるため教科書をベースとしたスライドを使用した。また、TBLを行い学生同士の活発な議論・プレゼンなどを行った。実習では口頭試問を取り入れ、学生の学習到達度を確認した。 「発生再生医学」（医学部2年）：神経及び感覚器の発生について講義を行った。 「医学英語」（医学部2年学生2名）：アクティブラーニングの手法を取り入れ、医学論文の精読及びプレゼンを行い、自分の研究経験もふまえ、デスカッションを行った。 「医科学研究」（医学部4年）：昨年度取り組んだ学生のポスター発表を指導し、その結果を日本神経科学会、日本解剖学会九州支部会、日本生理学会にて学生が共著者として発表することとなった。（医学部3年）：学生の研究を指導を行い、ポスター作成を行った。　生命倫理や医師国家試験についてのFDなどに参加した。 大学院生2名の研究指導を行い、うち1名は日本解剖学会九州支部会にて発表を行った。 沖縄リハビリテーション福祉学院、琉球リハビリテーション学院、沖縄統合医療院、SOLAに対し、神経解剖学実習を行った。　那覇市立看護学校、消防学校、歯科衛生士学校に対し、人体解剖学実習を行った。
研究	0.60	科学研究補助金基盤研究(C)「脊髄におけるGABAの放出及びその抑制性応答と胎児期の運動機能発達との関連」（代表）、340万円（直接経費）について研究を遂行する。 抑制性神経伝達物質に関する学会発表を1回行い、論文を1本投稿する。 大学内他講座、県内企業との共同研究を推進する。 日本解剖学会九州支部会代議員	0.60	科学研究補助金基盤研究(C)「脊髄におけるGABAの放出及びその抑制性応答と胎児期の運動機能発達との関連」（代表）について、学外分担研究者とともに研究を遂行した。　GABA伝達と脊髄発達についての著書が筆頭著者として受理された。　日本神経科学会・神経化学会合同学会、日本解剖学会九州支部会、日本生理学会、琉球医学会においてグリシントランスポーターについて筆頭著者として発表を行った。　日本解剖学会九州支部会において、指導した大学院生の共著者として発表を行った。　分子細胞生物学講座、先端ゲノム検査医学講座,との共同研究を行った。　電子顕微鏡を用いた研究について沖縄科学技術大学院大学との共同研究を行った。　県内企業1社と共同研究を行った。
社会貢献	0.03	JSTに採択された琉球大学女子中高生理系進路選択支援プログラム「サイエンスプロジェクトfor 琉球ガールズ」のイベントなどを行う。	0.03	高大接続の一環として、那覇国際高校にてSGHの授業で、2日間講演を行った。　医学部体験入学を行い、高校生3名に対し研究指導を行い、その様子がQABなどのテレビや新聞に取り上げられた。 琉球大学GSCについて、高校生を1名研究指導し、日本生理学会、沖縄科学技術シンポジウム及びGSC受講者全国大会にて発表を行った。GSCの授業の一環として、那覇空港見学を行い、JTA女性職員の講演の座長と行った。 サイエンスプロジェクトfor 琉球ガールズ運営委員会委員として、研究体験やOISTと共同して行うサイエンスキャンプの運営を行い、沖縄科学技術シンポジウムの講演の座長を務めた。 所属学会の賞の選考委員を務めた。日本解剖学会九州支部会代議員
管理運営	0.02	医学部医学科指導教員、大学院生2名の副指導教員 サイエンスプロジェクトfor 琉球ガールズ運営委員会委員としての職務を遂行する。	0.02	医学部医学科指導教員、大学院生2名の副指導教員となった。 サイエンスプロジェクトfor 琉球ガールズ運営委員会委員となった。 センター試験監督、2次試験面接委員を行った。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	大倉信彦	所　属	医学部医学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.60	昨年に引き続き，学部担当科目（分子細胞生物学，発生再生医学，人体の構造と機能，組織学実習，神経科学，基礎研究）の講義と実習を分担し，教材の改良に努める．学士編入学生と再試験受験者を対象に組織学実習の補講を行ない，組織学実習の習得を促す．	0.60	学部担当科目に関しては教材の改良を継続した。これらの教材は講義実習に用いるとともに、オンライン学習システムにアップロードし学生の自習の便を図った。人体の構造と機能においてTBLを引き続き実施した。本年も臨床講座の教員の協力を得てTBLに臨床現場の臨場感を取り入れることができた。組織学実習と人体の構造と機能における定期試験において、各教員が分担作製した問題を取りまとめる業務を担当した。学士編入学生と組織学実習再試験受験学生を対象に、組織学実習の補講を実施した。
研究	0.30	二型精子の研究を継続し、カワニナ精子の雌生殖器官における動態を解析する．特に精子貯蔵部位のイオン組成の特異性を明らかにし、少なくとも学会発表を1回行う．神経損傷モデルにおける神経回復過程を形態計測学的に評価する方法の確立を試みる。人体解剖学講座との共同研究で，HE染色標本の蛍光を用いた新しい観察法を開発する．細菌学講座との共同研究を分担し、培養尿細管上皮における感染性レプトスピラの侵入・通過過程を形態学的に明らかにする．二型精子研究に関して，科学研究費申請を行う．	0.30	カワニナ精子の研究を継続し、10月に岐阜大学で開催された、淡水貝類研究会第25回研究集会で演題を発表した。細菌学講座との共同研究を継続し、9月に淡路夢舞台国際会議場で開催された、国際学会18th Awaji Inernational Forum on Infection and Imunityで演題を発表した。科学研究費の申請を行った。
社会貢献	0.10	地域のコメディカル教育（那覇看護専門学校）に協力する．「人体の構造と機能」の講義および解剖見学実習を通して，看護職の基盤教育に貢献する．その他に，地域団体等からの要請があれば，一般市民を対象に，研究について判りやすく紹介する講義や講演などを行う．	0.10	那覇看護専門学校看護学科で人体の構造と機能（解剖生理学）Iの講義を行い、また、人体解剖実習見学を実施して、看護職の基盤教育に貢献した。
管理運営	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	小林　しおり	所　属	医学研究科	職　名	特命助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.10	・分子解剖学講座が担当する実習（組織学、神経解剖学、神経科学）にて医学部医学科学生に指導をおこなう。	0.10	・組織学実習や解剖学実習、医科学研究において、医学部学生の指導を行なった。
研究	0.90	・神経損傷や神経再生、神経可塑性に関する研究をすすめる。 ・上記の研究成果について、学術集会において1回以上発表し、原著論文1報以上作成し、投稿する。	0.90	・目標設定した研究内容について、原著論文がneuroscienceに採用された。
社会貢献	0.00		0.00	
管理運営	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	小田 高也	所　属	大学院医学研究科・ゲノム医科学講座	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.10	・新々カリキュラムの医学科１年次対象専門教育科目「分子細胞生物学」への参加．昨年度の経験を踏まえてWebClassを 活用した効率の良い知識の習得を目指す．昨年度より７コマを担当． ・２年次学生５名を対象とした医学外国語１５コマを担当(4/8-7/29)． ・３年次医科学研究生１名（前年度と同数）の受け入れ予定． ・５年次学生９名を対象とした倫理総合討論11班のチューター担当(9/18-10/23)． ・指導班(H26年度入学生５名･留年生４名･2年次編入生１名)への対応およびH26年度指導班からの留年生５名のフォローアップ．	0.10	(学　部) ･「分子細胞生物学」のうち「細胞の構造と機能の分子基盤」7コマを担当した．WebClassを利用して講義前には「用語解説」を講義資料として配付した． 講義後には指定教科書の担当範囲のうち，講義での解説を割愛した図の説明を補足資料として提供した．更に，匿名での講義アンケートを実施して 次年度に向けた改善の資料とした．また，「自主学習」の1コマを担当し，WebClassを通じて9種類の課題の中から1つを各学生に対してランダムに 割り当てることで，自主的な取り組みを促した． ･医学外国語では15コマを担当し，実践的な英語力の獲得に努めた．昨年度に引き続き講義参加の積極性を評価する指標としてのビー玉の残数や 各コマ毎に実施した自己評価も参考にして総合的な成績評価をおこなった． ･医科学研究では1名が講座に配属されて，研究課題『ヒトゲノムに存在する反復配列遺伝子が有する生理的機能の解明』に基づく実験を2月末まで 継続予定． ･倫理総合討論では「遺伝子診断」をテーマにチューターを担当した．討論会当日はWebClassのチャット機能も活用しつつ，活発な討論環境の構築に 努めた． ･6年次の選択実習生1名を担当して，研究課題『ヒトゲノムに存在する反復配列遺伝子が有する生理的機能の解明』に基づく実験を分担させた． ･8月上旬に実施された医学部体験授業では，那覇国際高校および昭和薬科大学附属高校から参加した男子学生および女子学生各1名を担当し， 研究課題『ヒトゲノムに存在する反復配列遺伝子が有する生理的機能の解明』に沿って培養細胞を用いた発現実験を体験させた． (学生支援１) ･前後期の懇談会を通して担当学生（および留年した元指導学生）と接し，履修指導をおこなうと共に卒業後の進路について自身の経験も伝えながら 話し合いをした．
研究	0.79	・研究課題『ヒトゲノムに存在する反復配列遺伝子が有する生理的機能の解明』を展開させるため，ヒト胎盤組織で特異的に 発現するHML6-c14転写物の細胞内での機能を明らかにする． ・2020年度『科学研究費補助金』の申請に向けて，細胞内で2種類存在する上記遺伝子転写物の細胞質および核内における 各役割を検証するための予備実験実施．	0.79	･機能性RNAとして注目している胎盤組織で特異的に発現するHML6-c14転写物は，蛋白翻訳能を有さないことを2017年度の医科学研究課題として 明らかとした．現在，HML6-c14転写物の胎盤での特異的発現に関して，上流約1.5kbのプロモーター領域の関与を2019年度の医科学研究課題として 配属されたM3生が検討中である．
社会貢献	0.01	・公益社団法人沖縄県小児保健協会が企画する乳児健診に小児科医師として月に１～３回程度参加し，県内在住の子どもの心身の 健全育成に関わっていく予定． ・上記に加え，今年度は南城市が企画する乳児健診にも１回程度参加予定．	0.01	･本島内の7市町村の乳児健診に23回参加した．
管理運営	0.10	・「ハラスメント相談支援センター」の学内相談員としてキャンパスにおける健全な環境維持に貢献する． ・一昨年度より新設された大学評価IRマネジメントセンターの評価企画員として教育・研究等の改善及び改革に取り組む活動に 参加する． ・教育連絡主任会議および医学教育評価委員会の一員として分野別評価実施調査後の対策活動への参加．	0.10	･ハラスメント相談支援センターの学部相談員として，木･金曜日の5コマ目を隔週で担当している．また，学部生に向けたハラスメント研修のために WebClassで研修用コンテンツ（内容は同センター伊藤副センター長が作製）が閲覧できるように準備し，その有益性を研修後にアンケート調査した． ･大学評価IRマネジメントセンターの評価企画員は今年度は任命されなかった． ･教育連絡主任および医学科医学教育評価委員としては記述すべき活動はなかった． ･上原地区キャンパス移転にむけて講義棟WGに参加し，講義･実習室に加え図書館の整備についての議論および2段階のヒアリングに参加した．
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	石田　肇	所　属	医学研究科人体解剖学講座	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	1学期中に解剖学実習のガイダンスを行う。実習開始後は、解剖学実習前の説明を行うとともに、献体の所見を把握させ、死因についてレポートを課す。口頭試問を3回とし、実習の質を上げる。解剖学実習での学生の成績評価を厳格に行う。6年次で実施する局所解剖学実習では、献体数を増やし、臨床系講座の参加を求め、臨床に即した実習を行う。3年次の医科学実習では、県外調査の機会を与え、短期留学を考える。さらに、Webclassを充実させ、授業前にスライドをアップすることにより、学生の自主学習を促す。また、週に一度、保健学科学生を実習に参加させ、医保連携に寄与する。	0.20	1学期中に解剖学実習のガイダンスを行い、夏休み明けにすぐ試験を実施したが、成績は悪かった。実習開始後は、解剖学実習前の説明を行うとともに、献体の所見を把握させ、死因についてレポートを課した。口頭試問を3回とし、実習の質を上げる努力をしたが、筆記試験では完全な2峰性になり、勉強をしない学生群が現れてしまった。そのため、解剖学実習での学生の成績評価を厳格に行った。6年次で実施する局所解剖学実習では、献体数を増やし、臨床系講座の参加を求めたが、参加は少なかった。今後の検討課題である。3年次の医科学実習では、県外調査の機会を与え、科研費の研究会にも参加してもらった。さらに、Webclassを充実させ、授業前にスライドをアップすることにより、学生の自主学習を促したが、先にあったように、勉強をしない学生群が現れてしまった。また、週に一度、保健学科学生を実習に参加させ、医保連携に寄与した。学部長のため、実習に参加する時間が確保できずに残念であった。
研究	0.20	時空間ゲノミクス（教育特別経費）、基盤研究A（分担）、新学術領域研究（研究計画分担）などを基に臨床系、東京大学、北海道大学および長崎大学等と連携し、琉球列島の人々の形態学、遺伝学、オホーツク文化人骨の遺伝学、生物学などの生物人類学研究を進め、インパクトのある雑誌への投稿を行い、受理を目指す。医学研究科並びに他学部、他大学などとの共同研究を進め、概算要求や大型科研費の申請を行う。戦没者遺骨鑑定の基盤研究B（分担）についても同位体分析等の研究を進める。	0.20	時空間ゲノミクス（教育特別経費）、基盤研究A（分担）、新学術領域研究（研究計画分担）などを基に臨床系、東京大学、北海道大学および長崎大学等と連携し、琉球列島の人々の形態学、遺伝学、オホーツク文化人骨の遺伝学などの生物人類学研究を進め、2本の共著論文(IF 1.3, 2.3)が受理されたが、研究時間が少ないため、次に繋がらない。医学研究科並びに他学部、他大学などとの共同研究を進め、概算要求や基盤研究S（分担）などの申請を行った。戦没者遺骨鑑定の基盤研究B（分担）についても同位体分析等の研究を進めた。
社会貢献	0.10	コメディカル養成機関への医学専門教育の協力。とくに、骨学実習や解剖学実習見学を実施し、系統的理解を図る。厚生労働省から沖縄戦戦没者遺骨鑑定を依頼されているので実施する。研究のところでも述べたが、鑑定に加えて、基盤研究として進める。医学教育振興財団運営委員会委員として、医学教育全般の発展に寄与する。	0.10	コメディカル養成機関への医学専門教育の協力。とくに、骨学実習や解剖学実習見学を実施し、系統的理解を図った。厚生労働省から沖縄戦戦没者遺骨鑑定を依頼されているので実施した。しかし、共同研究者の異動に伴い、厚生労働省分の予算が下りなかったので、いくらか遅れてしまった。医学教育振興財団運営委員会委員として、医科大学視察の会、医学教育指導者フォーラムに参加した。
管理運営	0.50	医学部長・医学研究科長として、医学部の教育研究を推進する。医学教育分野別認証を基に、より良い医学教育を進める。臨床医学と基礎医学、保健医学間の共同研究を推進する必要があるので、例えば、先端医学研究センターにおける臨床と基礎の橋渡し研究体制の強化、整備を進める。医学部・同附属病院の西普天間への移転に向け、実施設計を行うため、移転計画策定委員会委員長、移転推進委員会副本部長としてその任務に当たる。また、沖縄県、国などとの交渉に当たり、医学部の発展に寄与する。	0.50	医学部長・医学研究科長として、医学教育分野別認証を基に、より良い医学教育を、入試委員長、教務委員長とも進めた。臨床医学と基礎医学、保健医学間の共同研究を推進する必要があるので、例えば、先端医学研究センターにおける臨床と基礎の橋渡し研究体制の強化、整備を進めた。クロスアポイントメントで2人の特命教授を採用できた。医学部・同附属病院の西普天間への移転に向け、移転計画策定委員会委員長、移転推進委員会副本部長としてその任務に当たり、病院の実施設計は完了した。また、沖縄県、内閣府、文部科学省、経済産業省との交渉に当たり、沖縄県の予算を獲得し、医学部の発展に寄与したつもりである。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	泉水　奏	所　属	医学部　医学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.45	肉眼解剖、基礎配属の6年次実習に於いて、肉眼解剖の観察事項に関し組織学、生理学的関連を説明し、総合的な理解が深まるようにする。 さらに学生の学習意欲が高まるよう、学史的観点も含め臨床との解剖学の関連を解説する。そして、解説するだけでなく、質問することにより、考えようとする契機をつくるよう努力する。	0.45	肉眼解剖の観察事項に関し組織学、生理学的関連を説明した、加えて、総合的な理解が深まるよう臨床との関わりで、重要な点も解説した。学史的観点も含め臨床との解剖学の関連する事項について質問をした。 TBLに於いて、学生班に主要な死亡原因となる疾患について調べ発表を行ってもらい。 そこに質問をすることにより思考するような機会を作るよう努力した。
研究	0.45	卵への精子誘引の画像解析をおこないデーターを整理する。 基質の親水−疎水性のとホヤ幼生の付着との関係の論文を投稿する。細胞外pH 上昇による卵受精能獲得に関する論文の投稿する。 科研の申請を行う。	0.45	ホヤ付着実験の結果は一部投稿され論文となったが、付着と親水−疎水性の研究結果は学会発表したものの、まだ投稿に至っていない。細胞外pH 上昇による卵受精能獲得に関する論文に関しては進展していない。 また多様な動物門における組織標本の蛍光観察の結果を、学会発表した。
社会貢献	0.10	沖縄地域のコメディカル養成機関において、解剖学の講義を行い臨床的な関連を含め人体解剖学的知識を基盤として、コメディカル人員の養成に貢献する、	0.10	沖縄地域のコメディカル養成機関において、解剖学の臨床的な関連を含め人体解剖学的知識を基盤として講義を行い、さらに、国家試験問題に則した内容について講義することによりコメディカル人員の養成に貢献した。
管理運営	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	松下　正之	所　属	大学院医学研究科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.00	学部学生 1）「人体の構造と機能」の授業・実習により基礎医学の理解を深めさせる。 2）「分子細胞生物学」講義により、医学の基礎知識を習得させる。 3）国家試験レベルのミニテストなどを講義終了時に行う。 4）研究成果を紹介し、学生の基礎医学に対する興味を喚起する。 5）講義資料はWEBCLASSでも閲覧可能とする 大学院学生 1）生理学概論や各論の授業により、研究に必要な考えを習得させる。 2）4名の大学院生の指導教員として、学位論文の作成指導を行う。	0.30	学部学生：学部学生に対する講義目標は達成されており、学部学生が研究室で実験を行なっている。 大学院学生：大学院生の指導で修士学生2名、博士学生2名の指導を行なっている。1名の修士学生は博士課程に進学することになった。
研究	0.00	1）TRPM7変異マウスの脂質代謝異常についての論文投稿を行う。 2）科研費、AMEDなどの大型研究費の申請を行う。 3）武田製薬、小野薬品との精神疾患iPS細胞を用いた共同研究を推進する。 4）OIST高橋教授との精神疾患についての共同研究を推進する。	0.50	1）TRPM7変異マウスの論文を発表した（共著論文：PNAS）。 2）科研費（基盤B、挑戦的萌芽）の申請を行った。 3）武田製薬、小野薬品と共同研究契約を結び、精神疾患iPS細胞を用いた研究を推進し、成果が挙がっている。 4）OIST高橋教授との精神疾患についての共同研究で成果が挙がり、共同でOISTのグラントに申請した。
社会貢献	0.00	理学療法士や作業療法士を目指す学生たちに、生理学講義を行い、正常な身体の機能について教育する。	0.10	理学療法士や作業療法士を目指す学生たちに講義を行っている。
管理運営	0.00	分子・細胞生理学講座教授職にあり、本講座の准教授、助教、研究生の研究・教育指導にあたる。	0.10	分子・細胞生理学講座教授職にあり、本講座の准教授、助教、研究生の研究・教育指導を行なっている。
	0.00		0.00	
計	0.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	中村真理子	所　属	医学部　医学研究科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.55	・M2前期：医学外国語で、[血小板機能測定とその基礎知識」（英文）を選択し、英文購読しながら，研究内容を活かし、凝固系の知識を構築できる講義にする。 ・M1後期「人体の構造と機能（生理学分野）I講義・実習」を11コマと20コマ担当する。 学生からの意見を反映し、反復的な講義を目指す。講義内容を実習に取り込み、一連の流れで実習を行う。血管内皮細胞・血小板等の研究内容を講義や実習に導入する。学士入学M2：カリキュラムの都合上、別枠にて生理学実習を行う。 ・学生指導教官M6の学生へ臨床実習、国家試験への意識を高め、指導をおこなう。	0.50	・前期医学外国語講義で、[血小板の基礎知識を得るためのテキスト（英文）を選択し、輪読形式で購読した。知識を構築できる講義を心掛けた結果、学生より生理学講義の復習ができたと評価された ・後期M1「人体の構造と機能（生理学分野）I講義・実習」を11コマと20コマ担当し、講義内容を実習に取り込み、一連の流れで講義・実習ができた。本年度は実習を追加した為、ハードであったが、学生は興味を持って、実習に集中していた。学士入学者M2は、カリキュラムの都合上、別枠にて一部講義、実習を行った、実践に応用できる実習もできた。 ・学生指導教官M6対象の学生へ国家試験への集中学習と生活リズムなどの指導を行った。
研究	0.30	・小児科領域と共同研究を継続する。「血中の血小板由来マイクロパーティークル（PDMP)値の推移を比較し、凝固系破綻の早期発見と治療への応用につなげる」 骨髄移植におけるPDMPの推移とその他の検査値を相互的に判定できるようにする。 ・共同研究の結果を第１報として日本病態生理学会に発表する。 ・学会誌への投稿を目標にその準備をする。	0.40	・骨髄移植前後におけるPDMPの推移は、小児科領域と共同研究で、現在進行中である。本年度までに16例の対象患者の推移を測定した。共同研究の結果は、第97回日本生理学会（大分）での発表が決定した。目標が達成できた。 ・医科学研究対象学生（M3)との血小板凝集に与える生体内因子についての研究は今後の研究テーマに成りうる結果が得られた、この点も達成できた。
社会貢献	0.10	・理学療法士・作業療法士・柔道整復師を目指す学生に、生理学講義を通して正常な身体の機能を教授する（学外）。 ・県立看護大学大学院・名桜大学にて、病態生理学・生理学講義およびセミナーを行う。 ・日本生理学会・日本病態生理学会理事として、理事会・評議員会へ参加する。	0.10	・理学療法士・作業療法士・柔道整復師を目指す学生に、生理学講義を通して正常な身体の機能を講義するのを達成した。 ・県立看護大学大学院・名桜大学にて、病態生理学・生理学講義およびセミナーを達成した。 ・日本生理学会・日本病態生理学会（教育委員として）評議員会へ参加を行った。
管理運営	0.05	・センター試験・入学試験（面接）およびCBT等の試験監督を率先して協力する。 ・CBTのブラッシュアップに率先して参加する。	0.05	・センター試験の試験監督は本年度免除であった。 ・入学試験（面接）の依頼があり、面接については協力する。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.05	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	筒井　正人	所　属	医学研究科薬理学	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	①医学科2年生における薬理学の講義と実習、②医学科3年生における医科学研究の指導、③薬理学大学院生の研究指導、④医学科1年生における医学概論Aおよび医学概論Bの講義、⑤医学科2年生における医学外国語の講義、および⑥指導学生の生活指導に、熱意と誠意を持って取り組む。	0.25	左に記載している平成31年度の教育・学生支援の目標①～⑥について、熱意と誠意を持って取り組んだ。
研究	0.24	①権威のある雑誌への論文発表を目指す。②外部資金の獲得を目指す。③日本心脈管作動物質学会の理事長としての職責を果たす。④第4回黒潮カンファレンスを会長として開催する（会期：2019年11月15日、会場：琉球大学）。	0.24	①2019年の論文発表は、IF5.6とIF4.4の英文論文（共著）2報、英文著書（共著）1報、日本語著書（責任著者）1報であった。論文の質、量ともに目標を達成出来なかった。②外部資金は、科研費基盤研究（C）に代表者として採択された。③日本心脈管作動物質学会の理事長としての職責を全うした。④第4回黒潮カンファレンスを会長として開催した（2019年11月15日、琉球大学大学会館）。加えて、⑤ATVB誌（IF6.6）のTop Reviewer Awardを受賞した。
社会貢献	0.01	久留米大学医学部の非常勤講師（薬理学の講義を担当）および沖縄科学技術大学院大学の人対象審査委員会委員の職責を果たす。	0.01	左に記載している他大学の非常勤講師およびOISTの委員会委員の職責を果たした。加えて、新規に高知大学大学院医学研究科の非常勤講師として大学院セミナーにおいて講演を行った。
管理運営	0.50	①医学科長、②入試委員会委員長、③先端医学研究センター共通機器・RI研究支援分野長、④実験実習機器センター長、同センター運営委員会委員長、⑤戦略的研究推進委員会委員長、⑥教員人事学長諮問委員会委員、⑦予算委員会委員、⑧研究基盤センター運営委員会委員、⑨研究共用機器管理委員会委員、⑩学務委員会委員、⑪薬事審議会委員、⑫医学教育分野別評価対策委員会、⑬学生生活委員会委員、⑭人を対象とする医学系研究倫理審査委員会委員、および⑮移転計画策定委員会委員の職責を果たす。	0.50	左に記載している①～⑭の管理運営業務の職責を全うした。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	國吉幸男	所　属	胸部心臓血管外科学講座	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	1）学部学生への講義（M1からM3月まで、医学概論（M1））、医科学研究（M2)による学生指導 2)大学院生への講義；人工臓器、循環関連の講義等。修士、博士課程学生への研究指導 3）臨床実習（M4,5,6）学生への手術室、ベッドサイドでの教育 4）指導学生との懇談会、学習指導	0.25	左記、4つの項目について概ね完結した。
研究	0.25	1）大動脈外科（ステントを含む）時の脊髄虚血予防に関する臨床的、実験的研究 2）Budd-Chiari syndromeに関する臨床的研究、胸腹部大動脈瘤研究の推進 3）国内外学会への出席、報告	0.25	1）大学院生の研究にて脊髄虚血に関する研究を行っている。 2）に関しては学術集会での報告を行った。 3）、4）についても完結している。
社会貢献	0.10	1）地域医療への貢献 2）沖縄県における循環器外科領域の先進医療の導入、発展 3）医療に関する学術講演会の離島を含めた各地での開催	0.10	1）は通常の診療で可能であった。 2）はTAVI（Transcatherter valve implantation)の推進で、症例が200例を超えており先進医療の発展に貢献できた。 3）県立八重山病院でのTAVIに関する講演会を行った。
管理運営	0.10	第二外科科長、大学院講座長としての管理運営	0.10	左記項目について、講座の管理運営が大過なく、概ね順調に推移した。
診療	0.30	1）循環器外科領域における先進医療を医療安全の下で推進する。 2）TAVI(TAVR)、末期心不全患者に対する補助人工心臓植え込み術の実施	0.30	左記2つの項目について概ね問題なく経過した。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	山城　聡	所　属	医学部　医学科　胸部心臓血管外科学講座	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.15	医学部2年次及び3年次の臨床講義（系統講義）に加え、5、6年次の臨床実習教育を行い、心臓外科疾患の診断及び治療の基本を理解してもらう。年度末には試験担当し、評価を行う。特に、TBL講義においては、学生自らが主体となって考え、医療を実践できる知識を持てるよう心掛ける。臨床実習における学生の診療への参加を配慮し、できる限り学生が自ら問題提起できる環境を整える。初期臨床研修医・後期臨床研修医に対する臨床教育を行う。特に後期臨床研修医に対する教育は、一般外科のみならず胸部外科（呼吸器外科・心臓外科）の教育を行う。	0.15	医学部学生臨床講義及び臨床実習において心臓外科疾患の基本を理解させられた。年度末試験においてはその理解度を確認し得た。研修医に対する臨床教育において心臓外科手術手技及び術後管理について教育することができた。臨床指導をとうして、学生へ対応することができた。研修医への対応、指導ができた。懇談会等をとうして、学生へ対応することができた。
研究	0.20	基礎研究（心筋虚血・再灌流障害）の継続。臨床研究として開心術中の肺虚血・再灌流障害についての薬物効果解明に新たに取り組む。研究成果について論文発表・学会発表を行う。当科で参加している脊髄虚血研究に関して、臨床研究をすすめる。 また、臨床論文の筆頭著者論文を執筆する。	0.20	臨床研究としてのMICS術後の肺水腫予防についての症例を重ねている。肺水腫予防について国内外学会で発表し、さらに論文発表し得た。
社会貢献	0.15	臨床経験・治療成果（手術成績等）を学会発表、論文発表し、その情報を公開する。また、近隣病院での手術要請時に迅速に対応することで地域に貢献する。学外医療事故調査委員会への参加により医療事故防止に関して協力する。	0.15	大動脈疾患の手術成績の発表。当科で経験した希な疾患について学会や論文発表が行えた。近隣施設で緊急手術要請に対しては迅速に対応できた。
管理運営	0.15	諸委員会への出席及び病院管理にての決定事項に対する当該医局での徹底の管理。病棟及びICU入退院の円滑管理。現在所属する委員会(ICU協議会、手術部委員会　等)への参加及び問題提起による、院内運営を円滑にできるよう活動する。	0.15	諸委員会への出席及び病院管理にての決定事項に対する当該医局での徹底の管理及び病棟及びICU入退院の円滑管理ができた。
診療	0.35	心臓血管外科疾患の診断ならびに手術治療を行う。月・水・木の定期開心術に加え緊急手術の迅速な対応を行う。周術期管理、退院後の定期外来管理を担う。他院からの応援依頼等に対して迅速に対応する。	0.35	手術治療並びに診断を充実できた。特に緊急手術は迅速な対応で良好な結果を得られた。又、大動脈弁狭窄症さらには冠動脈疾患に関して新たに低侵襲手術への取り組みが行えた。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	前田　達也	所　属	医学部医学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	重症心不全疾患に対するアプローチ方法（診断、治療、フォローアップ）について医学部学生および臨床研修医に十分に周知できるように、外来見学、ベッドサイドレクチャー、手術見学などを積極的に行っていく。	0.20	医学部学生（臨床実習生）に対して、受け持ち患者を1例ずつあたえ、その疾患についての理解を深めるとともに、その周術期管理およびフォロー方法について学習してもらった。また、文献検索方法や疾患についてのレポート指導を行った。
研究	0.20	重症心不全に対する補助人工心臓治療に関して、学会での報告発表を行う。また、筆頭著者論文を執筆する。	0.20	心疾患（弁膜症、虚血性心疾患、心筋症　等）に対する症例報告、学会発表を行った。
社会貢献	0.20	沖縄県内おいて、重症心不全に対する補助人工心臓治療の周知および普及に努める。	0.20	地域への講演などを通して重症心不全に対する補助人工心臓治療の周知に努めた。また、関連病院における重症心不全患者にも協力できる体制を作っている。
管理運営	0.20	補助人工心臓（LVAD）治療のため、ハートチームの一員として、運営管理に携わる。	0.20	補助人工心臓患者の在宅における生活や機器の管理方法の指導や、管理アプリの導入を検討した。
診療	0.20	心疾患（弁膜症、虚血性心疾患、心筋症　等）に対する診断ならびに手術治療を行う。定期手術に加えて、緊急手術にも対応できるような態勢を整える。また、退院後の定期外来管理を行う。	0.20	臨床を通じて緊急でも対応できる診断、治療、フォローアップに努めた。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	喜瀬　勇也	所　属	医学部医学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	M5、M6医学部臨床実習学生の指導を行う。主にベッドサイドを中心に、周術期の患者管理、手術中の注意点を指導する。レポートの作成、プレゼンの指導を行う。学生の国家試験対策として、循環器専門領域の知識の拡充も図る。 M3医科学研究生には、心臓手術時の体外循環使用に伴う各種生体反応について理解が深められるよう、データの採取、解析を行い、研究発表まで指導する。臨床研修医には医療安全の重要性を認識してもらい、重症度の高い症例にも適切に対応できるよう指導する。	0.20	臨床実習学生(ポリクリ、クリクラ学生)に対し，心大血管症例の受け持ち症例をあたえ，その疾患の理解を深められるよう、不明点の説明、レポート指導、循環器解剖学講義、大動脈瘤・解離臨床例の講義を行った．手術場では開心術liveを通して、手術手技、体外循環下の臓器保護などについて解説を行った。また、M3医科学研究生(3名)に対し、人工心肺使用下の生体反応(酸素消費量の推移、止血凝固因子の変容、溶血反応)について理解が深められるよう講義を行い、データ抽出、解析、発表用スライド作成、プレゼン方法などを指導した。
研究	0.10	昨年に引き続き「胸腹部大動脈瘤手術時の脊髄虚血の機序解明およびその予防法の確立」を研究テーマとし、実験研究を推進する。また得られた知見をもとに、臨床においても対麻痺予防対策を施す。	0.15	左記研究テーマについて、臨床例から考察を深め、脊髄虚血予防法に関する論文2編が英文雑誌に掲載された。(Case report:1編、Original article: 1編)、心臓血管関連全国学会2演題、地方会1演題の発表を行った。左記研究に対する取り組みが評価され、日本心脈管作動物質学会評議員に任命された。
社会貢献	0.10	臨床業務を通して、適切な手術および患者管理を継続する。また専門性の高い心臓血管外科領域の疾病、その治療手段に関して一般の方の理解が深められるよう医療講話（公開講座）等を行う。医療過疎地として危惧される北部、八重山地域の当科関連の疾患に対して迅速な対応ができるよう努める。	0.10	八重山、北部地域を含めた県内の重症症例、緊急症例の受け入れを積極的に行った。
管理運営	0.10	医療事故を防ぐため各種委員会（輸血療法委員会等）で取り上げられた問題点を医局員へ伝え、円滑で安全な運営が出来るよう取り組む。 臨床研修センタースタッフとして、研修医が安全で効果的な研修を受けられるようサポートする。	0.05	臨床研修センタースタッフとして、研修医が効果的な修練を積めるようサポートした。「医師の働き方改革医員WG」メンバーとして活動し、時間外労働の短縮、医局員の健康被害の予防に努めた。
診療	0.50	外来、検査、入院患者の担当（主治医）を主とし、手術患者の周術期管理全般を担う。特に緊急、高齢者、合併症を持つ患者など他院での受け入れ、治療が困難な心臓外科領域の診療を積極的に行う。	0.50	専門性が高く、病態が複雑な心臓血管外科領域の症例に対し、術前管理、手術、術後適切な管理を行った。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	垣花　学	所　属	大学院医学研究科　麻酔科学講座	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	医学部でのM1に対する医学概論、M4に対する系統講義ならびにM5、M6への病院臨床実習における指導を行う。RyuMIC指導医養成セミナーの実施責任者としてセミナーを企画・開催する。初期研修医に対しては、初期臨床研修必須項目を実施できるように指導する。	0.15	医学部教育は十分できた。RyuMIC指導医養成セミナーの責任者として開催の運営を実践できた。初期研修医研修必須項目の実践は麻酔科において可能な項目が実践できた。
研究	0.15	平成30年度に獲得した科研費基盤（B)「硫化水素ガス吸入療法による脊髄虚血後運動神経保護効果のプロテオーム解析」において、硫化水素ガスによる細胞保護効果について実験研究を行う。また、愛知医科大学解剖学教室、琉球大学医学部皮膚科学講座との共同研究（硫化水素ガスと褥瘡治療）を行う。	0.15	科研費基盤（B)「硫化水素ガス吸入療法による脊髄虚血後運動神経保護効果のプロテオーム解析」の研究は順調にできた。硫化水素ガスと褥瘡治療については、沖縄科学技術イノベーション事業の支援のもと大きな成果を上げた（国内、海外特許申請）
社会貢献	0.10	北部地区病院の巡回診療を行い、地域の医療に貢献する。また、研究活動を学会および論文として公表し、その成果を臨床に応用できる体制を整える。科学研究費審査委員としての活動を行う。	0.10	科学研究費審査委員の活動は依頼がなかったが、沖縄県における医療事故調査委員として2件の医療事故の調査に関わった。
管理運営	0.15	総合臨床研修・教育センターの長として初期研修医の教育体制を管理運営する。沖縄県地域医療センターの委員として地域医療センターの運営方針構築に努める。附属病院副院長として診療・運営に関わる。複数の委員会に参画し業務を遂行する。	0.15	概ね実践できた。
診療	0.40	麻酔科長として手術部の効率を上げかつ安全性の向上に努める。複雑な症例の麻酔管理を行う。集中治療部長として、集中治療部メンバーと共に重症患者の診療にあたる。	0.45	十分に実践できた。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）						
名　前	中村清哉		所　属	医学部医学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	臨床において医学生、看護師、研修医などに手術麻酔、ペインクリニック、緩和ケアの指導をそれぞれ行う。また、医学生のポリクリや新入医局員に対して、緩和ケア、ペインクリニックの講義、ミニレクチャーを定期的に行う。研修医の症例報告や学会発表の企画、論文作成指導を行う。	0.20	臨床において医学生、看護師、研修医などに手術麻酔、ペインクリニック、緩和ケアの指導をそれぞれ行った。また、医学生のポリクリや新入医局員に対して、緩和ケア、ペインクリニックの講義、ミニレクチャーを定期的に行った。研修医の症例報告や学会発表の企画、論文作成指導を行った。
研究	0.15	慢性疼痛、緩和ケア領域における臨床研究、基礎研究を立案し、実行する。学会、研究会にて症例報告、研究発表を行い、論文を作成する。	0.15	慢性疼痛、緩和ケア領域における臨床研究、基礎研究を立案し、実行した。学会、研究会にて症例報告、研究発表を行い、論文を作成した。
社会貢献	0.15	週に1回程度、地域病院で外来診療、手術麻酔などを行うことで、新しい医療技術や安全の啓蒙を行う。年に数回、市民、医療者向けの医療講演会を行い、正しい医療知識の普及に努める。	0.15	週に1回程度、地域病院で外来診療、手術麻酔などを行うことで、新しい医療技術や安全の啓蒙を行った。年に数回、市民、医療者向けの医療講演会を行い、正しい医療知識の普及に努めた。
管理運営	0.25	医局運営に参加し、麻酔科医の円滑な職務遂行をサポートする。院内の各種委員会に委員として参加し、それぞれの効果的な運営をサポートする。	0.25	医局運営に参加し、麻酔科医の円滑な職務遂行をサポートした。院内の各種委員会に委員として参加し、それぞれの効果的な運営をサポートした。
	0.25	ペインクリニック診療を行い、慢性疼痛患者の生活の質の向上に努める。緩和ケアチームの一員としてがん患者の全人的苦痛を緩和し、意思決定支援を行う。手術麻酔を担当し、患者の安全とアウトカムの向上に努める。	0.25	ペインクリニック診療を行い、慢性疼痛患者の生活の質の向上に努めた。緩和ケアチームの一員としてがん患者の全人的苦痛を緩和し、意思決定支援を行った。手術麻酔を担当し、患者の安全とアウトカムの向上に努めた。
計	1.00		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）	□ 学外公表に同意しない。	□ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	神里　興太	所　属	大学院医学研究科麻酔科学講座	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.15	学生、研修医、看護師、臨床工学技士に対し、周術期患者管理に関する知識や技術に関する教育を行う。特に集中治療領域では人工呼吸器、持続血液ろ過透析装置、膜型人工肺等の急性期患者管理に必要な医療機器のしくみや取り扱いに関して講義に加え、実際の機器を用いた参加型の教育を行う。また、学部生あるいは大学院生への教育（臨床、基礎研究）をおこなう。	0.15	学生、研修医、看護師、臨床工学技士に対し、周術期患者管理に関する知識や技術に関する教育を行った。特に集中治療領域では人工呼吸器、持続血液ろ過透析装置、膜型人工肺等の急性期患者管理に必要な医療機器のしくみや取り扱いに関して参加型の教育を行った。また、学部生あるいは大学院生への教育を行い、発表手法に関しても教育を行った。
研究	0.20	集中治療室において人工呼吸条件の最適化にむけた臨床研究を推進する。また、多臓器不全に対するアフェレーシス療法などの効果判定に関する臨床研究を行う。また、獲得した科研費を運用し、脊髄障害モデルあるいは神経変性疾患モデルを用いた基礎研究を推進する。	0.25	集中治療室において人工呼吸条件の最適化にむけた臨床研究を開始した。また、多臓器不全に対するアフェレシス療法などの効果判定に関する臨床研究を開始した。また、ラット脊髄障害モデルを用いた基礎研究を推進し、脊髄変性疾患モデル治療に関する研究を開始したた。
社会貢献	0.15	県下の医療機関への派遣によって、安全な術中管理に貢献する。大学内での診療経験や研究から得られた知見を内外の医療従事者に講演する。	0.15	県下の医療機関への派遣による、安全な術中管理にを行った。大学内での診療経験や研究から得られた知見を内外の医療従事者に講演することで知見の普及に努めた。
管理運営	0.10	大学および大学病院における委員会の活動に貢献する。	0.10	大学および大学病院における委員会の活動に参加した。
診療	0.40	術前・術後管理を含む手術麻酔管理、特に集中治療管理を要する様な重症症例の周術期管理に従事し、安全な医療を提供する。集中治療室において人工呼吸療法やアフェレーシス療法を用いた先進的かつ高度な専門治療を行い疾患治癒に貢献する。内科を含めた他の科と患者病態管理に必要な連携を行う。	0.35	術前あるいは術後管理を含む手術麻酔管理、特に集中治療管理を要する様な重症症例の周術期管理に従事し、安全な医療を提供できた。集中治療室において人工呼吸療法やアフェレシス療法を用いた先進的かつ高度な専門治療を行い疾患治癒に対して努力した。他科との連携を強化し、早期の治療介入に対し努力した。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	當銘　保則	所　属	大学院医学研究科　整形外科学講座	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.10	M3,M4学生に対する講義、TBL講義および試験問題の作成・試験監督	0.10	M3系統講義6コマ担当、TBL講義および試験問題の作成を行った。臨床実習生の系統講義を毎クール行った。
研究	0.30	国内学会発表：2演題、国際学会発表：2演題、科学研究費獲得（基盤C）、競争的資金の獲得、西日本整形災害外科学会の編集委員として参画する	0.30	国内学会発表2演題（シンポジウム1題）、国際学会発表：1演題、英語論文：6編アクセプト（1編 first author、5編 coressponding author）
社会貢献	0.10	学会の座長や研究会、教育講演などの講師：1件	0.10	日本整形災害外科学会代議員、日本整形外科学会学術宇総会：抄録査読委員、日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会：座長・抄録査読委員、西日本整形災害外科学会：雑誌編集委員に従事し、整形外科関連の学会運営に参画した。
管理運営	0.20	新病院手術室WG、緩和ケア委員会委員、レジメン登録審査管理委員会、がん登録委員会委員、キャンサーボード委員会委員に従事し、管理運営に参画する。	0.20	新病院手術室WG、緩和ケア委員会委員、レジメン登録審査管理委員会、がん登録委員会委員、キャンサーボード委員会委員に従事し、管理運営に参画した。
	0.30	外来週2コマ、病棟業務：年間受け持ち目標20例、手術：執刀目標20例	0.30	外来週2コマ、病棟業務：年間受け持ち70例、手術：執刀70例
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）						
名　前	大久保　宏貴		所　属	大学院医学研究科　整形外科学	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	・本年度に入学した大学院生の英語論文投稿へ向けて、臨床研究を進めていく。 ・研修医に学会発表の機会を設け、論文投稿を経験してもらう。	0.20	・大学院生の英語論文は近日中に投稿できるまで完成度を高めることができた。 ・研修医には稀な症例報告をしてもらい、日本語論文を投稿できた。
研究	0.20	・小児肘関節骨折における受傷前肘アライメントが与える影響について研究成果を複数の学会で報告し、論文投稿を目指す。	0.20	・日本手外科学会、日本骨折治療学会で発表し、整形外科で最も大きな日本整形外科学会総会に口演で採択された。
社会貢献	0.10	・昨年度研究した小児上肢骨折の疫学調査結果を県内の医師に啓蒙できるように県医師会会報に投稿を目指す。 ・整形外科若手医師の教科書への執筆を行う。	0.20	・県医師会会報に投稿できた。 ・総説雑誌の編集を担当し、発刊された。
管理運営	0.25	・整形外科副医局長として、医局運営をおこなう。1年を通して健全な運営を目指す。	0.20	・特に大きな問題なく副医局長教務を完遂できたと考えている。
診療	0.25	・学会などで新たな手術技術を習得し、難易度の高い手術へ挑戦したい。	0.20	・8月に手関節鏡のカダバートレーニングで習得した技術を応用して、今までとは異なるアプローチでの関節鏡手術に取り組んだ。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。	□　学外公表に同意しない。　□　学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	金城政樹	所　属	大学院医学研究科　整形外科学	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	医学部生の臨床研修時の指導と手外科領域の講義。卒後研修医に対する指導。	0.20	ポリクリ、M3臨床配属、M6学会発表支援、卒後研修医への講義、指導を行った。
研究	0.20	先天性橈尺骨癒合症における臨床研究	0.20	学会表、作業療法士の本疾患に対する研究、発表の指導
社会貢献	0.10	スポーツ大会への帯同医派遣。学会の委員会活動。市民講座の運営	0.10	骨と関節の日市民公開講座の運営、甲子園出場校投手肘検診
管理運営	0.10	安全管理対策委員、輸血部委員会	0.10	各会議への参加
診療	0.40	整形外科外来及び病棟業務	0.40	整形外科外来及び病棟業務
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	斎藤　誠一	所　属	大学院医学研究科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	基本的知識、基本原理の説明、最新の知見の解説を行う。ぜひ覚えるべき知識はポリクリ等を通じて繰り返し行う。	0.20	外来においては学生や若手医局員に病態の説明を行い、診断や治療に対する理解を深めるように努めた。手術時には解剖に対する理解が深まるよう手術時にモニターを通して説明した。学生講義ではできるだけ最新の知識も取り入れ、ポイントが理解できるように努めた。倫理討論会では本質を見極められるよう指導した。
研究	0.20	共同研究も合わせて英語論文を執筆中であり、2019年度中に複数の論文を形にする。現在の血清マーカー研究を引き続き行う。	0.20	2019年に前立腺癌に関する長崎大学との共同研究の成果が論文 (Nakamura Y, et al. Glycoconj J 36 (5): 409-418, 2019.)となった。ニボルマブの有害事象の症例報告も論文となった (Nakanishi S, et al. Urol Case Rep 2020.)。医局員が学会及び研究会に参加し積極的に発表を行った。大学院生の博士論文は投稿中。
社会貢献	0.10	市民公開講座等を通じて泌尿器科疾患の啓発に努める。	0.00	2019年度は市民公開講座を行うことができなかった。
管理運営	0.20	各種委員会で建設的な発言を心がけたい。	0.20	2019年度は病院執行部会議、医学系研究倫理委員会、医療安全対策委員会、臨床倫理委員会等において本質的な発言をするよう努めた。
臨床	0.30	カンファレンスで1例1例の厳密な議論を心がける。若い医師にもそのように教育する。手術の際には、理詰めでポイントを教えるようにする。	0.40	症例カンファレンスでは患者さんに最適な医療を適応できるように議論を行った。放射線及び病理カンファレンスでも有意義な議論ができるように努めた。手術では自ら手術執刀を行うとともに、若手医局員が独り立ちできるよう指導を行った。手術件数が前年よりさらに増加し、ロボット支援手術は5−6ヶ月待ちとなった。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	仲西　昌太郎	所　属	大学院医学研究科　腎泌尿器外科学講座	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.10	学生に分かりやすい講義の準備と実施、ポリクリ・クリクラ学生への指導などを実施する。また、学生からのフィードバックを参考にクール毎に改善出来るよう努める。	0.10	学生に分かりやすい講義を意識して準備を行い実施した。また、ポリクリ・クリクラ学生への指導などを実施した。また、学生からのフィードバックを参考にクール毎に改善出来るよう努めた。
研究	0.40	大学院生として研究のまとめ、および論文執筆・投稿を行う。また、大学院卒業後も継続的に自立して研究を遂行出来るよう努力する	0.40	大学院生として研究のまとめ、および論文執筆・投稿を行っている（投稿中）。また、大学院卒業後も継続的に自立して研究を遂行出来るよう工夫している。
社会貢献	0.10	市民公開講座の実施やラジオなどで啓発活動を行う。	0.10	ラジオを介して啓発活動を行った。
管理運営	0.00	特になし。	0.00	特になし。
診療	0.40	外来業務と手術を実施する。また、主治医として病棟患者の指示出し、処置を行う。	0.40	外来業務と手術を実施した。また、主治医として病棟患者の指示出し、処置を行った。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	西原　一秀	所　属	医学部　医学科　顎顔面口腔機能再建学講座	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.00	・顎顔面口腔機能再建学講座医局員の臨床・研究ならびに教育に対する指導（口腔外科認定医、専門医、指導医の獲得、口腔科学会認定の獲得） ・顎顔面口腔機能再建学講座の大学院生の研究指導ならびにマネージメント ・歯科医師臨床研修医の教育指導体制の整備 ・医学部学生の歯科・口腔外科学の講義ならびに臨床教育の実施 ・海外医療援助活動における歯科医師臨床研修医ならびに医学部学生の参加	0.20	（達成できている） ・口腔外科学会指導医として医局員が口腔外科認定医が3名獲得した。 ・歯科医師臨床研修医には診察、研究指導を適切に行い、海外医療援助活動に2名が参加し、有意義な研修を行わせることができた。さらに医学部3年生1名がラオスで、1名がエチオピアで医療援助を体験した。 ・医学部学生では歯科口腔外科講義を担当し、ポリクリでは最終総括を行う指導は好評であった。また、学部5年生の指導教官として学生とコミュニケーションを取りながら担当学生の指導を行っている。
研究	0.00	・国際・国内学会誌の投稿および国際・国内学会・各専門学会の発表と指導 ・口唇口蓋裂グループの臨床的研究の充実とチーム内の研究のマネージメント ・科学研究費　基盤研究（C)の研究推進「・顎骨再建・口腔機能再建に対する基礎的・臨床的研究」の推進 ・AMED「琉球大学を起点としたヒト（同種）体性幹細胞原料の安定供給システムの構築」事業の参画 ・口蓋裂学会・治療ガイドラインの作成・完成	0.20	（達成できている） ・今年度はIFの有する英論文（共著）、日本語論文（共著）を報告した。 ・専門分野の口唇口蓋裂では国際学会で発表し、優秀発表賞と優秀ポスター賞を獲得した。その他、国内学会、講演会で発表を行った。 ・科研費基盤研究（Ｃ）を獲得し、研究をしている。また分担者としてＡＭＥＤの研究に参加し、再生医療分野の研究を開始している。口腔外科学会からは海外活動費を得て、医療援助活動に寄与している。 ・学会活動では口蓋裂学会でガイドライン作成委員として携わり、インプラント学会支部会の代議員、口腔ケア学会では評議員として国際医療に携わっている。
社会貢献	0.00	・口唇口蓋裂患者の国際医療援助活動（ラオス・エチオピア）の実施の継続 ・沖縄県口唇口蓋裂を考える会の定期的開催の継続 ・沖縄県のHIV関連の歯科診療連携の体制作りの推進 ・沖縄県口腔ケア研究会の実施計画と参画 ・（公社）日本口腔外科学会代議委員として学会に参画 ・日本口腔インプラント学会代議員・委員会委員として参画 ・日本口蓋裂学会診療ガイドライン委員として参画	0.15	（達成できている） ・12月ラオス国、2月エチオピア国で口唇口蓋裂医療援助活動を行った。 ・ＨＩＶ患者の治療を行う関連歯科病院の連携について歯科医師会で講演を行い、今年度県歯科医師会との共同連携によりネットワーク事業に貢献した。 ・「がん診療連携拠点病院等の患者に対する歯科保健医療推進事業」について県と共同事業で研究会、講演会（石垣島）などを開催して、口腔ケアの啓発に取り組んだ。 ・看護師協会、県歯科医師会など講演会を行い、生涯教育の役だった。
管理運営	0.00	・廃棄物処置委員会、経営改善委員会などの病院内各委員会の参加 ・全国国公立感染対策委員会歯科医療部会職業感染対策委員長として参画 ・歯科口腔外科診療科長代行として医局内を管理運営し、医療事故0件を目指す ・「がん診療連携拠点病院等の患者に対する歯科保健医療推進事業」の実施 ・日本口腔ケア学会認定「口腔ケア認定施設」の申請を行い、口腔ケアの充実を図る	0.25	（達成できている） ・病院運営会議、医療安全委員会、リスクマネージャ会議、感染対策委員会、廃棄物処置委員会、病院機能評価WGなど病院内各委員会に参加し、病院運営に携わっている。 ・本年度は全国国公立感染対策委員会歯科医療部会職業感染対策委員長として参画したが、次年度からはガイドライン作成委員長として参画する予定である。 ・歯科口腔外科科長代行として医局を管理運営し、医療事故は0件であった。 ・「がん診療連携拠点病院等の患者に対する歯科保健医療推進事業」では、研究会、講演会、口腔ケア実習、看護師の育成などを実施した。
診療	0.00	・歯科口腔外科外来・入院患者数の増加および診療報酬増加 ・口唇口蓋裂センターの診療体制の充実と患者増 ・病院内周術期の口腔ケアの診療体制の確立と患者増 ・歯科用インプラント治療の診療体制の確立と患者増	0.20	（ほぼ達成できている） ・歯科口腔外科外来・手術件数は増加していたが、入院稼働率の減少が見られた。 ・口唇口蓋裂センターの診療体制の充実を図り、往診数、患者数、手術数は増加している。 ・病院内周術期口腔機能管理の口腔ケアの診療体制の確立によって患者数は増加している。
計	0.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　□ 学外公表に同意しない。　□ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	加藤　大貴	所　属	医学研究科　顎顔面機能再建学講座	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.15	医学部における歯科口腔外科の意義について講義するとともに、歯科口腔外科の特殊性および特徴について学べる環境を提供したい。 医科歯科連携の必要性と意義について理解できる講義をしたい。 学生の積極的な授業及び実習の参加のために相互方向のやり取りができるように工夫を行いたい。 歯科口腔外科におけるナビゲーション手術、低侵襲手術についても紹介したい。	0.15	医学部における歯科口腔外科の意義について講義できた。また、歯科口腔外科の特殊性および特徴についてっも講義と実習で解説できた。 医科歯科連携の必要性と意義について理解できるように講義を行えた。 学生の積極的な授業及び実習の参加のために相互方向のやり取りができた。 歯科口腔外科におけるナビゲーション手術、低侵襲手術についても講義ができた。
研究	0.15	口腔外科関連学会誌に論文を投稿する。 日本口腔外科学会において学会発表を行う。 科学研究費獲得に向けて申請を行う。 AR、VRを用いた顎顔面手術支援システムも開発に向けた準備を行う。	0.15	口腔外科関連の論文が2報掲載予定であり、2報投稿中である。 日本口腔外科学会、日本口腔腫瘍学会において学会発表を行った。 科学研究費獲得に向けて申請を行った。 AR、VRを用いた顎顔面手術支援システムも開発に向けた準備を行っている。
社会貢献	0.10	日本障害者歯科学会指導医として、障害者歯科診療に関する学術講演会の企画を行う。 教育機関および市町村の要請に応じて歯科検診の実施を行う。 東南アジへの口腔外科診療技術移転に関与する。	0.10	日本障害者歯科学会指導医として、障害者歯科診療に関する学術講演会の企画した。 教育機関および市町村の要請に応じて歯科検診の実施を行った。
管理運営	0.10	当該科学生指導担当として講義および臨床実習のマネージメントを行う。また、オスキーの担当も兼務しているためオスキー実習のマネージメントも行う。 インフェクションコントロールドクターとして感染単対策委員会、感染対策の実務を担当する。	0.10	当該科学生指導担当として講義および臨床実習のマネージメントを行った。また、オスキーの担当として実習、講義を行った。 インフェクションコントロールドクターとして感染単対策委員会、感染対策の実務を担当した。
診療	0.50	口腔腫瘍外来の一員として口腔がん患者の術前術後の診察を行う。 障害者歯科学会認定指導医として、障害者歯科診療に従事する。 病棟担当として、口腔腫瘍、先天異常疾患、顎変形症、外傷などの治療を行う。	0.50	口腔腫瘍外来の一員として口腔がん患者の術前術後の診察を行った。 障害者歯科学会認定指導医として、障害者歯科診療に従事した。 病棟担当として、口腔腫瘍、先天異常疾患、顎変形症、外傷などの治療を行った。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	久木田　一朗	所　属	医学部　医学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.10	救急医療講義、医療学総論等で救急医学・災害医学の医学知識を伝えるのみでなく、救急部のERで実診療を見せて、どのようにしたら参加出来るかを成人教育し、実際に参加させて、知識・診療技術のみでなく、プロフェッショナリズム、コミュニケーション能力を得るように指導する。倫理討論では医療倫理のプロセスを体験してもらう。大学院生博士、修士へ救急・災害演習を行い科学的探究の糸口を示す。初期臨床研修医へのon the jobで教育を行う。ERへ出向する各科医師へ専門分野を超える救急の現場を共有する。6年次学生指導教官として学生指導。	0.15	救急医療講義、医療学総論等で救急医学・災害医学の医学知識を伝えるのみでなく、救急部のERで実診療を見せて、どのようにしたら参加出来るかを成人教育し、実際に参加させて、知識・診療技術のみでなく、プロフェッショナリズム、コミュニケーション能力を得るように指導した。倫理討論では医療倫理のプロセスを疑似体験する討論が出来た。大学院生博士、修士へ救急・災害演習を行い科学的探究の糸口を示した。初期臨床研修医へのon the jobで教育を行った。ERへ出向する各科医師へ専門分野を超える救急の現場を共有した。6年次学生指導教官として学生指導したが若干手薄だった。
研究	0.10	教室における重症患者の救命治療に関する研究、症例報告の作成を進める。講座に属する大学院生（博士・修士課程）の研究を進める。災害医療に関し島嶼防災研究センター（併任）に資する研究を進める。	0.10	教室における重症患者の救命治療に関する研究、症例報告の作成を進めた。講座に属する大学院生（博士・修士課程）の研究を進めたが進捗がやや遅れている。災害医療に関し島嶼防災研究センター（併任）に資する研究を進めた。
社会貢献	0.10	救急部の機能を充実させ、離島を含め県内からの救急搬送受入れを充実する。総合診療部との連携策等の計画を進める。病院前の救急医療体制の構築（県MC協議会）を消防機関と共に担う。地域災害拠点病院として、沖縄県や国、国際的な連携体制を構築するための活動を行う。県庁・海上保安庁と協力し沖縄での洋上救急、ヘリコプター添乗事業業に参加し、沖縄県の航空医療搬送システム構築へ貢献する。	0.10	救急部の機能を充実させ、離島を含め県内からの救急搬送受入れを充実し受入れ患者数を増やした。総合診療部との連携策等の計画を進めつつある。病院前の救急医療体制の構築（県MC協議会）を次世代に渡した。地域災害拠点病院として、沖縄県や国、国際的な連携体制を構築するための活動を行った。県庁・海上保安庁と協力し沖縄での洋上救急、ヘリコプター添乗事業業に参加し、沖縄県の航空医療搬送システム構築へ貢献している。
管理運営	0.15	救急部の3部門（ER、HCU、災害医療）を統合し機能を強化する。高気圧治療部長として管理運営する。医療機器安全管理責任者、ME機器センター長として、臨床工学技士の円滑な活動と療安全を向上させる。地域医療部長、在宅救急部運営協議会、診療委員会、病院運営委員会、医療安全評価室会議、委員会の委員会に参加し、医学部・病院の管理運営へ貢献する。	0.15	救急部の3部門（ER、HCU、災害医療）を統合し機能を強化した。高気圧治療部長として管理運営も順調である。3部門、地域医療、高気圧と部長職も多忙であり、救急部特命教授を1名増加させた。医療機器安全管理責任者、ME機器センター長として、臨床工学技士の管理、医療機器の安全の維持に努めた。地域医療部ミーティング、救急部運営協議会、病院運営委員会、医療安全評価室会議等の委員会に参加し、病院の管理運営へ貢献した。
診療	0.55	救急患者の診療、高気圧治療に従事する。救急車で搬入される重症患者、減圧症などの患者を受入れ、HCU部門でICUレベルの入院患者診療が可能にして、救命救急センターの設置が可能な体制を目指す。地域医療構想による急性期病院としての機能維持のため、救急患者受け入れの充実、出口対策にも着手する。救急からの入院を受け入れた各診療科の収入増にも貢献する。	0.50	救急部の診療、高気圧治療に従事した。救急車で搬入される重症患者、減圧症などの患者を受入れ、HCU部門でICUレベルの入院患者診療が可能にして、救命救急センターの設置が可能な体制に近づいた。地域医療構想による急性期病院としての機能維持のため、救急患者受け入れの充実、出口対策にも着手し、令和元年度地域医療介護総合確保基金（13，158千円）を採択された。救急からの入院を受け入れた各診療科の収入増にも貢献した。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	関口　浩至	所　属	大学院医学研究科　救急医学	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	・4月保健学科3年時講義「救命救急法：心肺蘇生法」担当。 ・6月医学科1年時「シミュレーション演習（BLSコース）」担当。 ・大学院医学研究科修士課程学生1名の研究支援（研究課題の決定、研究計画書の作成、研究倫理審査、データ収集・解析、論文作成、発表準備等）。　・大学院医学研究科博士課程学生1名の研究支援（研究計画書の作成、倫理審査委員会、データの解析、論文作成）	0.30	・4月保健学科3年時講義「救命救急法：心肺蘇生法」担当終了。 ・6月医学科・保健学科1年時「シミュレーション演習（BLSコース）」担当終了。 ・8月「第8回Kid's Sim 2019」「高校生医療者体験」担当終了。 ・10月 医学部医学科OSCE試験管担当終了。 ・令和2年1月　センター試験監督者 ・大学院医学研究科修士課程学生1名の研究支援（研究課題の決定、研究計画書の作成、研究倫理審査提出まで進んでいる）。 ・大学院医学研究科博士課程学生1名の研究支援（研究計画書の作成、倫理審査委員会承認まで終了し、現在データ収集まで進んでいる）。
研究	0.30	・「一次救命処置中の胸骨圧迫時間比を低下させる要因の検討ーシミュレーションを用いた横断研究ー」をアメリカ心臓協会関連、もしくは救急医学関連の英文誌へ投稿・発表をする。 ・上記研究を国内では日本救急医学会、もしくは日本臨床救急医学会で、国外ではアメリカ心臓協会の学会で発表する。 ・日本呼吸療法医学会の自発呼吸アセスメント指針作成委員として指針作成。	0.35	・「シミュレーション教育における胸骨圧迫の速さに関する検証. 第47回日本救急医学会.　東京, 2019.10　・"Consideration of an Optimal Educational Strategy for High-Quality Cardiopulmonary Resuscitation and Chest Compression Fraction in Basic Life Support Simulation Training" AHA-Resuscitation Scientific Sessions, Philadelphia, USA. 2019.11　・論文公表 "Computerized Data Mining Analysis of Keywords as Indicators of the Concepts in AHA-BLS Guideline Updates." The American Journal of Emergency Medicine. Nov, 30, 2019.(In press). ・日本呼吸療法医学会の自発呼吸アセスメント指針作成委員として参与していた指針を2019年10月24日に公表した。
社会貢献	0.10	・NPO法人沖縄救急災害医療機構で開催しているBasic Life Support (BLS)コースの普及にボランティアとして従事。	0.15	・NPO法人沖縄救急災害医療機構で開催しているBasic Life Support（BLS)コースの普及にボランティアとして沖縄本島や石垣島の講習会に合計10回参加。 ・2019年8月3日　第41回日本呼吸療法医学会学術集会（大阪）に一般演題（口演）座長として参加。
管理運営	0.00		0.00	
診療の補助	0.30	・琉球大学附属病院救急部HCUで実施される血液浄化療法並びに経皮的人工心肺の運用・維持管理。　・救急部HCU看護部の勉強会（CHDF等ME機器の取り扱いや重症患者のケア）を担当し、人材育成のサポートを行う。	0.20	・琉球大学附属病院救急部HCUで実施された緊急血液浄化療法を実施し、診療の補助業務を行った。 ・琉球大学附属病院救急外来で導入された経皮的人工心肺（PCPS)の維持管理のサポートを2例実施した。　・救急部HCU看護部の勉強会（CHDF等ME機器の取り扱いや重症患者のケア）を合計10回担当し、人材育成のサポートを行った。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	植田真一郎	所　属	大学院医学研究科　臨床薬理学	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	・平成31年度もこれまで5年間取り組んできた医師や医療従事者に臨床研究のスキルを習得させるプログラムを継続する。さらに今年度からは医師主導治験や先進医療Bを実施する臨床研究プロフェッショナルの育成も準備する。 ・臨床研究教育管理学講座博士課程第1期生の博士論文を完成させる。 ・臨床薬理学の講義、クラークシップ、TBL、ポリクリのプログラムをバージョンアップする。	0.30	・これまで5年間取り組んできた医師や医療従事者に臨床研究のスキルを習得させるプログラムを継続して実施した。さらに今年度からは医師主導治験や先進医療Bを実施する臨床研究プロフェッショナルの育成プログラムを作成し、政策提言を行った。 ・臨床研究教育管理学講座博士課程第1期生の博士論文を完成させた。 ・臨床薬理学の講義、クラークシップ、TBL、ポリクリのプログラムをバージョンアップした、
研究	0.40	・AMEDから研究費を得ている医師主導治験（第2相用量設定試験）を終了させ、次相の試験（第3相検証的試験）の準備を行う。 ・終了したランダム化比較試験（特定臨床研究）の論文、2型糖尿病合併冠動脈疾患コホートや心房細動コホートの論文を完成させる。 ・ゲノムコホートの構築に努める。	0.40	・AMEDから研究費を得ている医師主導治験（第2相用量設定試験）の症例の登録を行い、中間評価では6.5で次年度の研究費を確保した。 ・終了したランダム化比較試験（特定臨床研究）の論文を完成させた。コホート研究の最終報告書を作成し提出した。 ・ゲノムコホートの構築に努め、およそ600例を登録した。
社会貢献	0.10	・日本臨床薬理学会役員として臨床研究の正しい実施のための啓蒙活動を行う。 ・臨床試験についての理解を得るために市民公開講座を開催する。	0.10	・日本臨床薬理学会役員として臨床研究の正しい実施のための啓蒙活動を行う。 ・臨床試験についての理解を得るために複数のセミナーなどを開催した。 ・文部科学省ライフサイエンス課、厚生労働省研究開発振興課に政策提言を行い、採用sれた。
管理運営	0.20	・先端医学研究センター臨床研究総合支援部門(臨床研究教育管理センター)の機能を強化し、医師主導治験や先進医療Bのスムースな実施を実現する。 ・臨床研究支援センターでの業務の見直しを行い、治験CRCの業務負担を減らしつつ新たな治験を導入する。	0.20	・先端医学研究センター臨床研究総合支援部門(臨床研究教育管理センター)の機能を強化し、医師主導治験や先進医療Bがよりスムーズに実施できるようになった。 ・臨床研究支援センターでの業務の見直しを行い、治験CRCの業務負担を減らしつつ新たな治験を増やした。現在約40件である。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成３１年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）					
名　前	松下(武藤) 明子	所　属	医学研究科 臨床薬理学講座	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成３１年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成３１年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	臨床薬理学講義、大学院講義の担当分、その他依頼された講義は、厚生労働省やWHOの最新の統計データや、学術論文、自分の経験等を取り入れ、学生が今後の診療・研究を進めていく上で基本的な考え方が出来ることに重点を置き、理解しやすい構成を工夫する。	0.00	臨床薬理学と大学院講義(研究方法論概論)のそれぞれの分担コマを講義した。最新のデータを示す中、統計データを注意を払って解釈できるように教え、また研究倫理面に関して自分の体験した具体例を挙げ、理解しやすいように工夫した。 M3医科学研究の学生2名を3ヶ月間研究指導した。
研究	0.50	ヒト薬物動態試験、薬力学的試験、培養細胞実験等を組み合わせ、高血圧、動脈硬化関連疾患の発症メカニズム、治療法の探索を行う。今年から新たにがん治療に関わる研究を計画している。外部資金獲得のため、様々な助成に応募する。	0.00	外部資金獲得のためいくつかの財団に助成申請書を出していたが採択されなかった。
社会貢献	0.10	学会、論文発表等による研究成果の社会への還元	0.00	Effect of Short-term Colchicine Treatment on Endothelial Function in Patients with Coronary Artery Disease Kajikawa M,Higashi Y,Tomiyama H,Maruhashi T,Kurisu S,Kihara Y,Mutoh A,Ueda SI International Journal of Cardiology 281 35-39 2019年4月 Renin-Angiotensin System Inhibitors Can Prevent Intravenous Lipid Infusion-Induced Myocardial Microvascular Dysfunction and Leukocyte Activation. Yasu T,Mutoh A,Wada H,Kobayashi M,Kikuchi Y,Momomura S,Ueda S Circulation journal : official journal of the Japanese Circulation Society 82(2) 494-501 2018年1月。 国体予選九州ブロック馬術大会沖縄県代表コーチ
管理運営	0.20	委員会等、依頼があった場合、協力する。 主催･協力しているリサーチカンファランスを引き続き開催し、学部・研究科の大学院生や研究者のネットワークをつくりを継続し、全体の研究アクティビティの活発化を推進する。 自身が主体となって行う臨床研究の試験計画書作成、試験コーディネートを行う。	0.00	大学入試センター試験警備救護→試験室追加のため監督 リサーチカンファランスは開催出来なかった。大学院中間発表会に参加して質問意見等することで貢献した。
	0.00		0.00	
計	1.00		0.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	苅谷　研一	所　属	医学研究科・医化学講座	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.45	大学院教育（共通講義、特論、演習等）、学部教育（生化学を含むM1オムニバスコース：分子細胞生物学の世話人、講義および実習、M3医科学研究）、および共通教育（医学概論A）を担当する。また、副指導教員を担当している他講座の大学院生にも必要な支援を行う。	0.45	大学院教育ではインターネットを利用した海外研究者による大学院講義の方法を検討した。学部教育ではM1分子細胞生物学の世話人として各講座の成績を取り纏め総合評価に同意を得た。またM3医科学研究においてOISTインターンの英文出願を指導した。
研究	0.35	教室員とともに研究の進展、論文の採択、学外との研究交流（学会や他施設との共同研究等）、外部資金の獲得などにつとめる。	0.35	講座で独自に作成したKOマウスの戻し交配を完成し本学動物施設にて受精卵・精子の凍結保存した。OISTとの共同研究、OIST教員の本学客員教授申請など交流を行った。
社会貢献	0.10	民間研究者との連携、将来社会に還元できる研究を目指す。また、知財分与など学外の研究コミュニティーに協力する。	0.10	民間ベンチャー企業のマウス行動実験を支援した。
管理運営	0.10	各種委員としての業務を遂行する。	0.10	委員会業務を勤めた。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	海川　正人	所　属	医学研究科・医化学講座	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	大学院での教育業務は講義、副指導教員業務、学部学生には講義（生化学/分子細胞生物学）、演習(医学英語)・実習（生化学/分子細胞生物学などを担当する。学生支援としては学部学生の指導教員業務を行う。	0.40	大学院では分担した講義および副指導教員業務を遂行した。学部では分子細胞生物学講義と生化学実習指導を分担し、医学英語をも担当した。また、学生支援としては学部の指導教員業務を行なった。
研究	0.40	自身の科研費(基盤研究C)獲得課題について研究するとともに、講座内教員、他講座員さらには国外研究者とも交流して研究進展、情報交換に励み、論文の採択、さらなる外部資金の獲得を目指す。	0.40	自身の研究課題について海外研究室とも連携して研究を行い、各種学会で情報交換を行なった。学内でも他講座共同研究者の分担者として他講座研究に参加した。
社会貢献	0.10	研究で得た知見が将来的に臨床に還元できることを目指して研究する。	0.10	自身の研究課題では、将来的に血液腫瘍領域での知見の実用化を目指している。
管理運営	0.10	講座内業務分担、機器使用効率化等を調整する。また教務連絡主任としての学部教育関連業務や各種学内委員業務を遂行する。	0.10	講座内の各種業務分担に加え、学内でも教務連絡主任、学内委員として活動し、入試関連の監督及び面接委員業務を遂行した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）						
名　前	野中　公子		所　属	医学研究科・医化学講座	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	教育業務としては、医学科での生化学・分子細胞生物学実習等を他の教員と分担する。学生支援としては、学部学生の相談に応じて、女性研究者・臨床医としての経験に基づく助言を行う。	0.40	医学科学部生の実習準備や現場での指導を行った。学生支援としては後輩の女子学生に助言した。
研究	0.50	代表者として獲得した科学研究費課題を中心に教室の教員、他講座、他施設の研究者と共に研究を進め、学会、研究会で情報交換するとともに、論文発表、外部資金の獲得につとめる。	0.50	代表研究課題を計画に従い行った。OISTの客員研究員も勤めた。
社会貢献	0.05	臨床現場に成果を還元できる研究を目指す。また、出身臨床講座の診療業務支援を引き続き行う。	0.05	将来の実臨床に結びつく研究を心掛けている。出身臨床講座の本学附属病院外来で支援活動をしている。
管理運営	0.05	動物、試薬・機器の効率的維持管理、環境負荷軽減につとめる。	0.05	研究室が保有する多くのノックアウトマウス系統の維持管理、書類整理などを担当した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	安里　剛	所　属	医学研究科・医化学講座	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	学部教育（生化学・分子細胞生物学の講義、実習、実習評価、各種問題作成等）を分担する。	0.40	学部学生に対する生化学・分子細胞生物学講義、生化学実習教材（マニュアル等含む）作成や実験指導、実習レポートの評価、各種問題作成等に従事した。
研究	0.40	講座内の他教員、他施設の研究者と協力・情報交換して研究水準の向上を図り、知見の発信や外部資金の獲得を目指す。	0.40	講座内外の研究者（OIST及び民間含む）との共同研究者として論文投稿準備を続行した。
社会貢献	0.10	研究成果が将来的には民間から社会、地域へ還元されるよう心がける。	0.10	民間の共同研究者とデータを共有する準備作業を行った。
管理運営	0.10	節電・節水など講座内の環境改善に務める。	0.10	講座内環境の整備、資材の配置（移転計画関連含む）や保管環境改善作業を行なった。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成３１年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	仲嶺　三代美	所　属	医学研究科・生化学講座	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成３１年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成３１年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.45	医学科1年次の分子細胞生物学講義および実習を担当する。講義では生体内でのタンパク質の合成および分解、脂質代謝等を担当する。理解が深まるような内容にするための資料を準備する。実習では生体に含まれるタンパク質の分離精製法などを担当する。さらに、前期は医学科6年次の臨床研究、大学院の講義を担当する。後期には医学科３年次の医科学研究を担当する。また、医学科1年次の指導教官を担当する。大学院生２名への実験の指導を行う。	0.45	3年次の医科学研究では、2名の学生の研究を指導した。そのうち一名がポスター発表にて優秀賞を受賞し、もう一名は第72回日本薬理学会西南部会にてポスター発表を行い、優秀発表賞を受賞した。医学科１年の講義、生化学実習、演習を担当し、実習ではタンパク質の分離精製とその特徴について、学生の理解を深めるための実習となるように工夫した。１年次の指導教員を勤めた。1・4年次合同研修の引率員として渡嘉敷島へ同行した。６年次の臨床研究を指導した。大学院生の講義および大学院生の研究を指導した。
研究	0.30	神経由来の培養細胞およびゼブラフィッシュを用いてGPCR刺激によるチロシンキナーゼであるPyk2の活性化機構を明らかにする。研究成果は、日本生化学会、日本薬理学会西南部会等にて発表する。また、これまでの研究が論文として採択されることを目指す。	0.26	培養神経細胞を用いて細胞内情報伝達機構を解析し、研究成果を日本生化学会、日本生化学会九州支部例会にて口頭発表、日本薬理学会西南部会、日本薬理学会にてポスター発表した。筆頭著者として論文がアクセプトされた（FEBS J)。第２著者として論文が２報採択された（J Cell Physiol, Journal of Biochemistry）。平成30年度科研究（基盤研究C）が継続中である。
社会貢献	0.10	沖縄県で開催する学会、研究会へ積極的に参加することで県内のコンベンション事業の活性化に貢献する。	0.18	８月に医学部体験授業で高校生3名にゼブラフィッシュを用いた脳形成の研究を指導した。８月と9月に子供科学技術人材育成事業サイエンスリーダー育成講座の遺伝子組換え技術と発展の講師として参画した。11月に第72回日本薬理学会西南部会、市民公開講座の事務局長を勤めた。
管理運営	0.15	研究室内で使用する劇物および毒物指定の試薬、免税エタノールの使用に関して保管および使用記録等の管理に携わる。センター試験などの試験監督業務に従事する。付属図書館運営委員、教育連絡主任を務める。	0.11	付属図書館運営委員会委員を務めた。試験問題の作成を行った。また、大学院生の副指導教員を担当した。教育連絡主任を務めた。試薬管理システムの試薬の登録・管理を行った。大学入試センター試験では主任監督者を担当した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	加留部謙之輔	所　属	大学院医学研究科　細胞病理学講座	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	学生に対する講義および実習において、まとまりのある資料作りと分かりやすい説明を心がける。	0.30	講義、実習において学生と活発に討議でき、理解度を把握することができた。
研究	0.60	悪性リンパ腫のテーマの研究を継続し、論文発表を行う。	0.60	研究成果を海外を含め複数の学会で発表し、また論文として採択された。
社会貢献	0.05	研究成果について、広く一般に情報発信する。	0.05	ホームページにおいて情報発信した。
管理運営	0.05	倫理委員会、入試委員会、学生委員会、人事に関する委員会など、計7つの委員会を担当している。病理診断科長を兼任している。	0.05	各委員会で討議するとともに、学生生活委員会では委員長を務めた。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	崎浜　秀悟	所　属	医学研究科　細胞病理学講座	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	学生に対する実験指導に当たり、学生の技術習得をサポートするとともに、学生との円滑なコミュニケーションを図り、研究への興味関心を広げられるように努める。	0.25	実験指導に当たり、研究内容についてディスカッションを深められるよう努めたが、うまく伝わっていないことが多々あった。来年度は学生の理解を確認しながら指導ができるよう努めたい。
研究	0.70	「沖縄県におけるATLのゲノム解析」をさらに推し進めるとともに、新たな研究や実験技術習得にも力を注ぐ。	0.65	「沖縄県におけるATLのゲノム解析」について、SNPアレイによる解析を追加しデータが揃った。執筆中の論文を仕上げ、次のテーマの実験を進めていきたい。
社会貢献	0.05	研究成果について、広く一般に情報発信する。	0.05	国内における学術集会で発表を行った。また、琉球大学医学部体験授業で、県内高校生の指導に当たった。
管理運営	0.05	寒剤利用責任者や試験監督などを務める。また、講座内の寒剤や実験機器の保守を行う。	0.05	講座内における寒剤や実験機器の保守を行った。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	二宮　賢司	所　属	医学研究科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	医学科4年次向けの「法医学・医事法制」において、全講義の約半分を担当する。その際前年度の学生の授業評価を踏まえ、スライド等の改善に取り組む。法医学を希望するクリクラ生に対し実習を実施する。医学科1年次向けの医学概論Aにおいて、1コマ分の講義を担当する。修士・博士の学生に対する講義（法医学特論・社会医学概論）の一部を担当する。	0.20	「法医学・医事法制」では計画通り講義の約半分を担当した。また講義内容を見直し、コマ割りの変更などを行った。クリクラ生および3年次の医科学研究選択希望者を受け入れ、実習その他を行った。医学科1年次向けの医学概論Aにおいて、1コマ分の講義を担当した。修士・博士課程の学生に対する講義（法医学特論・社会医学概論）を計2コマ行った。法科大学院の講義2コマ分を担当した。2年次学生の指導教員を担当した。琉大病院の研修医向け共通研修カリキュラムにて1コマ分のレクチャーを行った。
研究	0.40	法医学の研究に資するため、期間内に50体以上の解剖を自ら執刀する。法医学講座の研究及び運営のための外部資金を獲得する。国際誌に学術論文を掲載する。	0.40	令和2年1月30日までに、自ら94体の法医解剖を執刀した。法医学講座として、3千万円以上の外部資金を獲得した。国際誌への学術論文投稿は準備中である。
社会貢献	0.20	沖縄県警の検視レベルの向上を目的とする「法医実務教養」を実施する。小児の虐待被疑事例に関し、児童相談所の依頼に応じて生体鑑定を行う。	0.20	上原キャンパスにて県警向けの「法医実務教養」を開催し、自らは2時間1コマの講義を10コマ行った。小児虐待被疑事例に関し、児童相談所の依頼に応じて生体鑑定を行った。また県警の依頼により、傷害被疑事件などの生体鑑定を行った。県警の検視業務に協力し、3件の検案を行った。県医師会警察医部会において検案に関する講演を行った。
管理運営	0.20	医学研究科学務委員会、医学科教務委員会、医学部自己点検評価・改善委員会等の委員会委員として活動する。また医学部移転に関連して、解剖法医棟・納骨堂・慰霊碑WGの委員として活動する。	0.20	医学研究科学務委員会、医学科教務委員会、医学部自己点検評価・改善委員会等の委員会委員として活動した。医学部移転に関連して、解剖法医棟・納骨堂・慰霊碑WGの委員として活動した。その他、入試問題作成委員長を務めた。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	深沢　真希	所　属	医学部　医学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.15	医学科4年生の講義を担当し、法医学の基礎的知識を得られるような講義資料を準備し、講義および質疑応答を行う。医学科6年生の臨床実習（クリクラ）では、法医実務に関する指導を行う。大学院講義を担当し、法医実務の概要や虐待についての臨床的知識を得られるような講義を行った。	0.15	医学科4年生の講義を6時限分担当し、法医学の基礎的知識を得られるような講義資料を準備し、講義および質疑応答を行った。医学科6年生における1カ月間の選択実習では、法医実務に関する指導を行った。修士および博士の大学院講義を各1時限分ずつ担当し、法医実務の概要や虐待について、豊富な症例写真を提示しつつ、法医学の臨床的知識を得られるような講義を行った。
研究	0.65	法医学に関連する国内学会に参加して、学術発表を行う。法医解剖例に関する英文の学術論文を作成し、学術誌に投稿する。法医学の研究に資するため、期間内に自ら100体以上の法医解剖を執刀する。	0.65	法医学に関連する国内学会に参加し、ポスター発表を行った。法医学の研究に資するため、令和2年1月24日までに174体の法医解剖を自ら執刀した。法医解剖例に関する英文の学術論文を現在作成中であり、年度内に査読付英文学術誌に投稿予定である。
社会貢献	0.20	児童相談所からの依頼に応じ、虐待されたと疑われる児の生体鑑定を行う。沖縄県警察の行う検視業務に協力し、死体検案を行う。沖縄県警察の検視レベル向上を目的とする「法医実務教養」において講義を行う。法曹関係者らの求めに応じ、傷害致死事件などに関する面談、説明を行う。	0.20	児童相談所および警察からの依頼に応じ、被虐待疑いの児の生体鑑定4件を行い意見書を作成した。検察庁および沖縄県警の求めに応じ、殺人被疑事件に関する面談と調書作成への協力を行った。沖縄県警察の行う検視業務に協力し、死体検案3件を行った。沖縄県警察の検視レベル向上を目的とする「法医実務教養」ならびに「検視実務専科」において、合計7.5時間の講義を行った。
管理運営	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	池松　夏紀	所　属	大学院医学研究科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.10	医学科4年生への中毒の講義を担当する。学生が理解しやすいよう、実際の事例などを交えた講義資料を準備し、講義および質疑応答を行う。6年生の選択実習では実務的な法医学的指導を行う。	0.30	医学科4年生への講義スライドを作成し、実際の事例を交えて3時限の講義を行った。6年生の選択実習では科学捜査研究所見学への同行や実務的な法医学的指導を行った。3年生の医化学系研究ではエタノールとカフェインの抽出実験と機器分析、並びに得られたデータの統計解析の指導を行った。
研究	0.40	法医剖検スクリーニングで検出される医薬品や生体物質の、法医剖検例における診断意義を検討する研究を継続的に行い、その研究結果を法医学会や法中毒学会で発表する。特に、本年度は科研費基盤研究（C)「尿毒素としての腸内細菌産生フェニルアセチルグルタミンの法医剖検診断の意義の解明」の研究を重点的に行う。発表した内容について論文にまとめ、学術雑誌に投稿する。	0.20	演題「透析中に発症した小脳出血の1剖検例：血中p-cresol濃度の検討」を日本法医学会学術全国集会にてポスター発表した。「尿毒素としての腸内細菌産生フェニルアセチルグルタミンの法医剖検診断の意義の解明」の研究では福岡大学で測定された剖検100例分のデータ解析を行い、また当講座での測定を可能にするべく、測定系の確立に努めた。学術論文は現在作成中で、年度内に査読付英文学術誌に投稿予定である。
社会貢献	0.50	法医解剖例の薬毒物検査を行う。沖縄県警察の検視レベル向上を目的とする「法医実務教養」において講義の一部を担当する。	0.50	2019年に解剖した症例のうち、42例について各薬毒物の定性・定量分析を行い、報告書を提出した。また、沖縄県警察官・自衛官・海上保安官等を対象とした法医実務教養において、4時間の法医中毒・薬毒物分析に関する講義を行い、質疑に応えた。
管理運営	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	川上　由香	所　属	医学研究科　法医学講座	職　名	特命助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	医学科4年生の講義を担当する。講義においては、法医学の基礎知識習得のための講義資料を準備し、小レポートや質疑応答を交えた講義を行う。法医学を選択した臨床実習生に対して、実際の法医解剖・検案業務を通して法医実務の紹介・指導を行う。	0.20	医学科4年次の講義3時間分を担当した。医学科6年生の選択実習生および法医学実務見学希望者に対し、解剖や検案業務などの法医実務の紹介・指導を行った。医学科3年生の実習生に対し、法医実務の紹介・医学科研究の指導を行った。
研究	0.60	法医学に関連する学会に参加し、学術発表を行う。学術論文を作成し、学会誌に投稿する。法医学の研究に資するため、期間内に自ら100体以上の法医解剖を執刀する。	0.60	法医学に関連する国内学会（日本法医学会学術全国集会、学術九州地方集会）に参加し、ポスター発表および口演を行った。令和2年1月28日現在までに80件の法医解剖を執刀した。現在、執刀症例について学術論文を作成・投稿準備中である。
社会貢献	0.20	児童相談所からの依頼に応じ、虐待されたと疑われる児の生体鑑定を行う。沖縄県警察の行う検視業務に協力する。沖縄県警察の検視レベル向上を目的とする「法医実務教養」を担当する。	0.20	令和元年1月28日現在までに、児童相談所からの依頼により虐待されたと疑われる児の生体鑑定を6件行い、沖縄県警の行う検視業務4件に協力した。沖縄県警察の検視レベル向上を目的とする「法医実務教養」および「検視実務専科」において、それぞれ6時間分と1.5時間分の講義を担当した。
管理運営	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	益崎　裕章	所　属	医学研究科　内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	学生・研修医向けの講義・総回診・外来見学実習を中心とする臨床実習を通して教育・指導を徹底する。	0.25	当初の目標を達成出来た。
研究	0.25	教室員の論文指導を通して研究活動を推進し、学会発表、英文論文発表を中心とする成果発信を積極的に進める。国内・国際特許をはじめ、知的財産権の獲得に努める。大型競争的研究資金の獲得を目指す。	0.25	1件の国際特許、2件の国内特許を申請した。沖縄県の競争的資金を2件、獲得出来た。
社会貢献	0.05	県医師会・県栄養士会・県薬剤師会における講演や指導、全国レベルの学会、研究会における一般市民向け講演会・ウェブ情報発信・新聞やメディアを通した医療啓発活動に積極的に関与する。	0.05	当初の目標を達成出来た。
管理運営	0.15	学務委員会委員、栄養管理部長をはじめ、院内・学内の各種委員会における職責を全うする。	0.15	当初の目標を達成出来た。
進路指導	0.05	学生、研修医、教室員に積極的に関わり、進路指導、キャリア・プランニングを支援する。	0.05	当初の目標を達成出来た。
臨床	0.25	総回診や外来実習を中心として、教室全体の臨床レベルの向上と教育・指導を実践すると同時に琉球大学医学部附属病院における高度先進医療の向上・発展に貢献する。内分泌代謝、糖尿病、血液、膠原病リウマチ疾患のエキスパート(専門医)を育成する。	0.25	当初の目標を達成出来た。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	森島　聡子	所　属	大学院医学研究科 内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	(1) M3学生への系統講義（血液学総論、白血球疾患とその他の骨髄性疾患、輸血、造血幹細胞移植、凝固異常症）を行う (2) ポリクリ学生への指導及びレクチャーを行う (3) 大学院生の教育及び研究指導を行う	0.25	(1) M3への系統講義を、学生が十分理解できるように行えた。 (2) ポリクリ学生には、病棟実習時や症例検討カンファレンスで指導を行った。グループごとにレクチャーを行った。 (3) 大学院生への研究指導、論文作成指導を行った。
研究	0.38	(1) 科学研究費基盤C 研究課題「潜伏感染ウイルスが関与するリンパ系腫瘍の発症と進展におけるHLAの意義の解明 」の研究実施 (2) 科学研究費新学術領域研究課題「造血細胞移植に関わる新たなアロ免疫認識機構の解明」の研究実施 (3) AMED研究班（村田班）の研究分担者として遺伝子情報と臨床情報を用いた解析の実施 (4)日本臨床腫瘍研究グループ(JCOG)、日本成人白血病研究グループ(JALSG)の多施設共同研究の施設参加 (5) (1)～(3)の研究の学会発表と論文化	0.38	(1) 科学研究費基盤C 研究課題「潜伏感染ウイルスが関与するリンパ系腫瘍の発症と進展におけるHLAの意義の解明 」については、当講座の大学院生に研究指導を行いながら、研究を実施した。 (2)　科学研究費新学術領域研究課題「造血細胞移植に関わる新たなアロ免疫認識機構の解明」においては、新たに白血病細胞におけるHLA異常に関する研究を実施した。 (3) AMED研究班においては、造血細胞移植におけるHLAの意義について解析を実施した。 (4) JCOG, JALSGの多施設共同研究への参加を行った。 (5)　(1)～(3)の研究について、学会発表や論文作成を行った。
社会貢献	0.07	(1) 沖縄県内の血液内科関連施設との協力して、研究会や勉強会を実施 (2) 日本骨髄バンクHLA委員会の委員として活動 (3) 日本造血細胞移植登録一元管理委員会が設置するHLAワーキンググループの責任者として活動 (4) 日本組織適合性学会の教育委員会委員及び倫理問題検討委員会委員として活動	0.07	(1) 沖縄県内の血液内科関連施設と協力して、定期的に研究会と勉強会及び移植検討会等を実施した。 (2) 日本骨髄バンクHLA委員会の委員として、骨髄移植ドナー選択に必要なHLAに関連する検討事項を討議した。 (3) 日本造血細胞移植学会HLAワーキンググループの責任者としてグループの取りまとめを行った。 (4) 日本組織適合性学会の委員として活動した。
管理運営	0.05	(1) 講座の医局長として活動 (2) 院内のレジメン登録審査委員として活動 (3) 特定認定再生医療等委員会の委員として活動	0.05	(1) 講座の医局長として活動した。 (2) 院内のレジメン登録審査委員として活動した。
診療	0.25	(1)血液内科に関する診療：外来診療、入院診療、セカンドオピニオン (2)骨髄バンクドナーの骨髄採取(年間10-12回)	0.25	(1)血液内科に関する診療：外来診療、入院診療、セカンドオピニオン等を行った。安全に、質の高い診療を行なえた。 (2)骨髄バンクドナーの骨髄採取を安全に行った。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	岡本　士毅	所　属	医学研究科内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座（第二内科）	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	大学院生の教育・指導を行う。得られた結果は速やかに国内外学会への発表を促す。今年度も引き続き福島医大からの国内留学生の受け入れ継続が決まっており、論文作成に向けて指導と研究支援を行う。2019年度内分泌系講義のうち2コマを担当する。	0.21	大学院生の教育・指導を継続的に行っている。留学生の原著論文を仕上げ、掲載した(Eur J Nutr. 2019, Millman J et al.) 。国内留学の受け入れと指導を行なっている。6月にM3生向け内分泌学講義「食嗜好性を決定する脳内メカニズム～ストレス後に甘いものが欲しくなる理由～」、7月にM2生向け神経科学講義「食嗜好性を決定する脳内メカニズム～ウィルスを用いた遺伝子導入による神経活動操作～」、12月に大学院生向けに社会医学概論「神経行動学（食の嗜好性に関わる脳内機構）」の3コマの講義を行った。
研究	0.75	原著論文投稿・印刷に向け研究を推進する。今年度が最終年度である科研費採択課題を完遂し、次年度の新たな研究資金獲得に努める。各種助成金、寄付金の獲得を目指し申請を進める。更に共同研究の遂行にも従事する。	0.75	「オリーブオイルとアマニ油の腸内細菌叢への有効性」に関する英文論文がEur J Nutr. 2019, Millman J et al.に掲載された。さらに国内留学生の研究テーマに関する研究結果をもとに特許申請を完了した。また他の研究テーマを立ち上げ、3企業からの奨学寄付金（シオノギ製薬、テルモ生命科学振興財団、メディカルライス協会）を獲得し　先端医科学研究支援事業から研究支援を頂いた。また沖縄県医科学研究財団より平成31年度研究奨励賞を頂いた。
社会貢献	0.00		0.02	日本肥満学会刊行委員会に参画し、学会刊行誌の編集・企画会議を行った。
管理運営	0.05	動物実験施設ワーキンググループに参加し、今年度から動物実験施設運営委員会委員としても従事する。	0.02	動物実験施設ワーキンググループに参加し、新設計建屋内にウィルス感染実験室および行動解析室の設置を希望し、実現に向けて議論した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	岩淵成志	所　属	循環器・腎臓・神経内科学講座	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	①M5,M6の臨床実習、循環器分野の系統講義の充実 ②循環器グループスタッフへの冠動脈カテーテル治療に関する系統講義 ③循環器分野でのあらたな臨床研究への知識の共有 ④関連病院も含めた総合的な臨床実習の確立	0.30	①②は十分であった、③④は前年度並みに実施できた。
研究	0.30	① 冠動脈ステント治療に使用する、Drug eluting stent, balloon cathter, extension guidecaterなどの模擬血管モデルを使用した機能評価研究②沖縄県の慢性冠動脈疾患患者におけるクロピドグレルからプラスグレルへの変更後の血小板凝集能に関する検討（Ryukyus Swith Study）の多枝説共同研究を完成させる。③模擬血管を用いたPCI教育システムの構築と実践。④AS registry研究継続。	0.30	①は模擬血管を使用した研究を多数EuroPCRでの発表済み。②研究は終了し現在論文作成中。③理化学研究所とのあたらしい模擬血管モデルの特許取得済み、模擬血管も1件特許取得し、1件申請中。④ひきつづき継続中。
社会貢献	0.20	①沖縄県で唯一の経カテーテル的大動脈弁置換術の認定施設として重症大動脈弁狭窄症患者のTAVI治療の確立と臨床成績の公表 ②県内唯一の施設としての、僧房弁閉鎖不全症に対するmitral clip（カテーテル治療の）導入 ③県内唯一の施設としての、左心耳閉鎖術の導入	0.20	TAVIは年間78例、通算200例以上となり、沖縄の医療に貢献している。
管理運営	0.10	①環器グループの病床運営、紹介率向上、逆紹介率向上 ②冠動脈カテーテル治療数の増加	0.10	①②とも前年度並みに実施できた。
臨床	0.10	①慢性肺動脈血栓塞栓症に対するバルーン治療の増加 ②冠動脈カテーテル治療数の増加 ③重症心不全の心移植症例の管理、県内唯一のインペラ（補助循環装置）の導入　④ 不整脈カテーテル治療数の増加	0.10	①③は十分な症例数と良好な臨床成績であった。②はPCI200例達成したが、さらなる増加が望まれるため、関連施設へのはたらきかけをしている。④は不整脈に対するカテーテルアブレーションは年100例ペースに著明に症例増加。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	山里　正演	所　属	大学院医学研究科　循環器・腎臓・神経内科学	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	病棟実習において第3内科で学ぶべき基本症候をきめ，実習の際の目標をわかりやすくし，実習の充実をはかる．また，終了時OSCEとのつながりを意識し指導する．病棟実習生と初期研修医のカルテ記載と発表能力が向上するよう支援する。腎不全および高血圧の講義を担当し、学生の習得目標達成を支援する。	0.25	病棟実習では実習終了時の評価法を意識して実習に取り組むようオリエンテーションを担当した。内科臨床の教育として、腎不全の講義に加え、新たに高血圧総論、高血圧の病態、二次性高血圧の講義を担当した。
研究	0.25	間葉系幹細胞および脳室内マクロファージとneurogenic hypertensionの関係について，論文作成を進める．高血圧患者における尿中ナトリウム排泄及び尿中カリウム排泄より外来患者の食塩摂取量及びカリウム摂取量について検討を進める。循環器グループのステント実験の研究補助、論文作成補助を行う。	0.25	DOCA食塩高血圧ラットを用いて脳における間葉系幹細胞の役割についての論文を作成し、投稿中である。脳室内マクロファージとneurogenic hypertensionの関係についての論文は作成中である。冠動脈ステントの実験についてを助言を行った。
社会貢献	0.30	臓器合併症の発症･進展予防を目指し高血圧･腎疾患を中心に外来診療を行う。治療抵抗性高血圧外来を立ち上げる。朝夕の病棟回診を通し、入院主治医への助言を行う。入院患者への患者学習会を担当し、高血圧や腎疾患の生活習慣改善に関わる知識の普及に努める。	0.30	病棟入院中の患者・家族を対象に高血圧学習会を継続して行った．特に塩分摂取を減らす方法・重要性について指導した。高血圧・腎臓病の外来および入院患者の日々の回診および時に病棟の総回診を行なった。
管理運営	0.20	医局構成員の将来像を確認し、それぞれに対してのキャリアパスについて助言を行う。研究助成の申請補助を行う。関連施設との人事交流の調整を行う。	0.20	医局構成員の将来像を確認し、それぞれに対してのキャリアパスについて助言を行った。研究助成の申請や申請書作成補助をおこなった。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	下地　英明	所　属	琉球大学大学院　医学研究科　消化器・腫瘍外科学講座	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	①医学部の学生に対して：1）担当講義を行い、医学知識の向上を図る。2）医行為を経験させるクリニカル・クラークシップ型の外科臨床実習を行う。②医学部学生および研修医に進路指導を行う。	0.25	① 1）担当講義　食道の外科的治療をおこなった。 2）1外科臨床実習に参加した学生に対して外科臨床実習を指導した。②医学部学生および研修医に進路指導を行った。以上より、目標は達成できた。
研究	0.30	①消化器外科学領域、特に食道・胃外科領域での臨床研究成果を学会で発表する。②論文を作成し、発表する。③臨床研究成果を基に、科学研究補助金の申請を行い獲得を目指す。	0.30	①国内の学会・研究会で1件の発表と2件の座長を行った。概ね目標は全て達成できた。
社会貢献	0.05	①沖縄県内視鏡会に参加し、地域医療に貢献する。②所属学会・研究会の委員会に参加して、我が国の外科学の進歩に貢献する。	0.05	①沖縄県内視鏡会の定例会、理事会に参加した。②評議員・幹事等に任命されている所属学会・研究会のほとんどに参加し、一定の貢献を行った。また、九州地区TNT]研修会に講師として参加した。以上より、目標は達成できた。
管理運営	0.10	①担当の医学部附属病院委員会に参加し、運営に寄与する。	0.10	①任命された各種委員会に委員として出席し、運営に寄与した。以上より、目標は全て達成できた。
診療	0.30	医学部附属病院で、①消化器外科領域の食道・胃外科グループ長として、外来診療、病棟診療、手術を担当する。②内視鏡検査を担当する。①・②・を通して、若手医師の指導と育成を行う。	0.30	①食道・胃外科のグループ長として、外来診療、病棟診療、手術を担当した。②内視鏡検査を担当した。①・②・を通して、若手医師の指導と育成を行った。以上より目標の全てを達成した。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	國仲　弘一	所　属	医学部医学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.05	研修医への講義・実技指導。医学部学生、大学院生への講義。病棟実習生への指導・講義。	0.05	達成できた
研究	0.10	乳がん、甲状腺疾患に関する研究。学会発表及び研究発表。	0.10	達成できた
社会貢献	0.05	地域での講演活動や研究会、患者会への出席。	0.05	達成できた
管理運営	0.05	病院運営に関する各種会議への参加。	0.05	達成できた
診療	0.75	乳がん、甲状腺疾患の診療。	0.75	達成できた
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	青木　陽一	所　属	医学研究科　女性・生殖医学講座	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成30年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	・当科診療マニュアル改訂第2版による医局員教育の実施 ・産婦人科専攻医に対するセミナー講演 ・医学研究科大学院生13人の研究指導 ・研修病院選択への助言 ・医学博士号取得の勧奨 ・サブスペシャリティー専門医取得の勧奨	0.20	・当科マニュアル改訂2版に沿って治療方針決定を指導した。 ・8回の定例研修セミナーを行った。 ・13名の大学院生に対する研究立案、研究指導を行った。 ・研修病院選択への助言を行った。 ・2名の博士論文執筆指導を行った。 ・1名が周産期新生児学会の母体・胎児専門医を取得した。 ・2名が日本産科婦人科学会専門医を取得予定。
研究	0.20	・開発治験、臨床研究の遂行 ・子宮頸癌、子宮体癌、周産期に関するマイクロバイオーム研究の開始 ・積極的な論文執筆	0.20	・現在、開発治験3件が進行中、臨床研究は多数件進行している。 ・子宮頸癌、子宮体癌、周産期に関するマイクロバイオーム研究に対して、人を対象とする医学系研究倫理審査委員会から承認を得て、研究を開始した。
社会貢献	0.10	・JGOG, JCOGでの臨床研究参画 ・各種学会での理事、評議員としての参画 ・沖縄産科婦人科学会での学会・研修会・市民公開講座の企画・開催 ・子宮がん検診勧奨のための公開講座等への参画 ・女性の健康週間での公開講座開催	0.10	・各種学会での理事会、評議員会への出席。 ・沖縄産科婦人科学会として、年2回の沖縄産科婦人科学会の開催と胎児心エコーセミナーの遠隔地開催の支援を行った。 ・9月8日、子宮がん検診啓発のための市民公開講座を開催した。 ・3月9日、更年期に関する市民公開講座を開催した。
管理運営	0.20	・副病院長としての貢献 ・がんセンター・緩和ケアセンター長としての貢献 ・臨床工学室長としての貢献	0.20	・経営担当副病院長としての職務を遂行した。 ・がんセンター・緩和ケアセンター長に任務を遂行した。 ・臨床工学室長としての任務の遂行。
診療	0.30	・手術件数の増加、特に子宮頸癌・体癌腹腔鏡下手術 ・子宮頸癌に対する広汎子宮頸部切断術（腟・子宮体部温存手術）の実施 ・働き方改革に向けて、外来・病棟診療体制の再構築	0.30	・前年同時期に比較し、手術件数・腹腔鏡下手術の件数100件の増加を得ている。 ・平成31年は広汎子宮頸部切断術を4例施行した。 ・外来、病棟診療体制の再構築の計画・立案を行った。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）	□ 学外公表に同意しない。　□ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	仲本朋子	所　属	医学部医学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.10	医学部生の講義、および臨床実習での指導を行う	0.10	系統講義、および臨床実習での指導を行った
研究	0.15	JGOG、JCOGの臨床試験に加えて院内臨床研究に参加する	0.10	治験や臨床試験に患者登録することができた。しかしJCOG、JGOGの会議などへの出席はできなかった。
社会貢献	0.05	市民公開講座など、啓発活動に参加する	0.00	市民公開講座、啓発活動にはほとんど参加することができなかった
管理運営	0.05	委員会委員としての活動を行う	0.10	委員会委員（手術部、リスクマネージャー、クリニカルパス）の活動を行った
診療	0.65	婦人科腫瘍の臨床に携わる	0.70	婦人科腫瘍診療において患者の治療にあたった
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	金城　忠嗣	所　属	女性生殖医学講座	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	研修医の臨床指導、学生の講義、ベッドサイドティーチングを行い教育に貢献する	0.30	A 2,3年生を対象に周産期の講義を行った。クリニカルクラークシップで来る学生に指導を行った。
研究	0.30	周産期での、まずは症例報告の論文作成を目指す。学会発表もする	0.30	B　自分自身の論文作成には至らなかった。
社会貢献	0.01	大学病院の医師の一員として求められれば人がいないところに応援に行く。学外の委員会へ参加する。	0.01	A　産科当直の依頼があった時に応援に行った。
管理運営	0.09	大学病院の医師の一員としてリスク管理、感染対策に取り組む。保険診療にのっとり、保険病名を記載する。委員会委員で、委員会に貢献する。	0.09	A　リスク管理、感染対策に取り組み、研修会にも出席した。保険診療にのっとり、保険病名を記載した。
	0.30	日常診療、特に周産期分野において診療する。	0.30	A　産科医として診療し、周産期新生児学会で発表した。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	山城　哲	所　属	医学研究科細菌学講座	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	M2学生を対象とした微生物・免疫学コースのコーディネータとして、琉球大学のURGCC、医学部医学科の卒業時コンピテンスに等に即したシラバス作成を行う。また細菌学講座が担当する講義・実習を監督し、教員として実施する。M2学生を対象とした医学英語を開講する。またOISTからの同講義の学外講師を支援する。M3学生を対象とした3か月間の医科学実習を実施する。M2学生の指導教員として学生を指導する。医学教育評価委員長として活動する。	0.35	細菌学シラバス全体の監督、講義および実習を担当した。医学教育の水平的統合の一環として、細菌学、ウイルス学、寄生虫学、免疫学を統合し、微生物・免疫学コースが設立されたが、そのコーディネータとして貢献した。M2学生を対象とした医学英語を開講し、OIST教員の受け入れも行った。またM3学生を対象とした3か月間の医科学実習を実施中である。博士課程・修士課程学生の講義を担当し、学位論文作成のための指導を行った。保健学科国際環境保健学学生講義を担当し、試験問題を作成した。学部学生1年次の指導教員として年次別懇談会を2回開催した。医学教育評価委員長の任を務めた。全学大学院教育プログラム委員会委員として、全学的な大学院教育の整備に参画した。医学研究科入試説明会に2度参加し、研究内容の概説を行った。
研究	0.35	細菌学講座として、英文誌に4編程度の投稿を目標とする。細菌学会、熱帯医学会、および日米コレラ分科会に演題を発表する。科学研究費（基盤A）、AMED研究費（長崎大学分担）で実施している研究を推進する。大学移転に関する感染症研究グループ代表として県内における感染症研究を推進する。	0.35	細菌学講座として、英文誌に4編投稿をし、内3編がアクセプトとなり、1編がリバイス中である。細菌学会、熱帯医学会、日米コレラ分科会、AMED主催のAARF、腸炎ビブリオ研究会にて演題を発表した。また沖縄県内における感染症研究を推進すべく、準備を進めた。
社会貢献	0.10	本年11月に開催する、第60回熱帯医学会総会（沖縄）にて大会長を務めるが、その準備を進める。市民公開講座を企画・運営する。長崎大学医学部にて、学生講義を行う。琉球医学会会計担当理事として活動する。	0.10	第60回熱帯医学会総会（記念大会）の大会長を務めた。同時に市民公開講座を開催し、琉球大学共催、沖縄県、宜野湾市後援と言う形態で、琉球大学医学部移転にまつわる情報を市民向けに発信した。長崎大学医学部、鳥取大学農学部獣医学科の学生講義を担当した。琉球医学会理事（会計担当）として、主に会計が関与する規則等の改変をおこなった。
管理運営	0.20	医学教育評価委員長として、医学教育評価業務を推進する。教務委員として学部学生教育業務を推進する。学務委員として大学院教育業務を行う。学生生活委員として、学生生活の充実に関わる。医学教育企画室委員として、医学部における教育の計画、立案及び評価に携わる。医学教育分野別評価対策員として、本学医学部医学科の認証に寄与する。副医学部長として医学部の移転および基礎医学教育全般に関与する。	0.20	医学教育評価委員会委員長、琉球大学医学部病原体等安全管理委員会委員長、また、学務委員会、教務委員会、学生生活委員会、医学部業績評価委員会、医学研究科予算委員会、の各委員として活動した。医学科移転準備室長、研究棟ワーキンググループリーダー、準備室会議リーダーとして、またその他移転準備策定委員、ワーキンググループ員として、医学部の移転業務に参画した。医学部副医学部長として医学部長の補佐を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	トーマ　クラウディア	所　属	大学院医学研究科・細菌学講座	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	①新たな知見や研究成果を学生に伝えられるように講義資料を改善する ②学生からの積極的な意見の聴取 ③医学部6年次の指導教員として学生を支援	0.30	①医学部医学科の卒業時コンピテンスに対応し、講義の資料を改善した。 ②医学外国語クラスを担当した。 ③ 「グローバルサイエンスキャンパス(GSC)」事業に参加する高校生の研究指導を行い、指導した受講生が全国のGSC大会で「審査委員長特別賞」を受賞した。 ④医学部、6年次の指導教員として学生を支援した。
研究	0.50	①学会誌への投稿 ②学会での報告発表 ③外部資金の獲得 ④所属部外局以外との共同研究	0.50	①国際誌（Scientific Reports)へ論文を掲載し、プレスリリースを行った。 ②国内学会（細菌学会・日本熱帯医学会）で発表した。WHOインド部局が開催した"World Congress on Leptospirosis"にinvited speakerとして参加した。 ③科研費基盤研究（B)を継続した。 ④国内学外（OIST）と共同研究を開始した。スリランカのPeradeniya大学と共同研究を継続した（論文準備中）。
社会貢献	0.15	地域貢献としての具体的取り込み	0.15	沖縄で開催された「第57回レプトスピラシンポジウム」の企画講演「沖縄県におけるレプトスピラ症に対する取り組み一過去・現在・未来一」を企画した。
管理運営	0.05	委員会委員	0.05	①琉球大学の「ブラジルサテライトオフィス部会」の委員 ②科研費アドバイザーとして、1件の研究課題を支援した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	岸本　英博	所　属	医学研究科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	学部学生に対しては、「寄生虫学」、「医学概論」及び「医学外国語」を担当し、コア・カリキュラムの基準を満たす講義・実習を行う。医学科1年次の指導教員として、受持ち学生の修学面、生活面、精神面に対して指導する。基礎研究室配属された学生に対し、全員が英語の論文を読みこなせるように指導し、生命科学の研究に興味を持つよう指導する。学務委員長として大学院の講義のオーガナイズをし、クラウドを利用した新講義システムの導入を目指す。博士課程の学生の研究を指導し、博士論文の書き方を指導する。琉球大学医学部の研究に関わる国内外の1流の研究者のセミナーを主催する。医学研究科の学生の就職活動に対して出来る限りサポートする。	0.30	医学部学生には、「微生物・免疫学」のうち寄生虫学の講義・実習を担当し、コア・カリキュラムの基準を満たす講義・実習を行った。「医学外国語」「医学概論」を担当した。「医科学研究」では、3名を研究室内、5名を学外で分子細胞生物学的手法を用いた実験を指導し、1名は医学部長賞、4名は優秀賞を受賞した。2名の博士学生を指導した。残念ながら、1名の博士課程の学生を期限内（4年）で卒業させることができなかった。医学科1年次の指導教員として、受持ち学生の修学面、生活面、精神面に対して指導し、卒業させた。学務委員長として社会人学生が講義を受けやすいように大学院の講義のシステム改善を始めた。
研究	0.30	講座スタッフ、学内、学外の研究者と協力して学振やAMED等の公的外部資金の獲得をめざす。財団法人等の研究助成金の獲得を目指す。国際学会での発表、国内学会での発表を各2回以上行う。国際紙への論文発表を2編以上行う。琉大内での共同研究のシーズを開発する。民間と協力してバイオ医療機器の開発を行う。国内外の研究者と共同研究を進める。	0.30	講座助教の琉大発ベンチャー運営のサポートし、県からの補助金を獲得した。1社と共同研究契約を行った。国際学会では2回以上（共同研究者の発表も含む）、国内学会は3回以上（共同研究者の発表も含む）を行った。残念ながら国際紙への論文発表は1編、雑誌への投稿は1編と論文の草稿も1編であるが年度内に終了させれなかった。新規の抗体ライブラリーを用いた研究で、東北大学や東京大学、国立がん研究センターと共同研究を行っている。理科大、台北医学大学と琉大の共同開催の国際シンポジウムの企画立案をし、開催した。
社会貢献	0.10	日本免疫学会評議委員として日本免疫学会のアウトリーチ活動に積極的に参加し免疫学の一般への普及を進める。日本寄生虫学会評議員として寄生虫感染症に対する一般知識の浸透に勤める。医工連携の研究を推進するため、がん医療を支える新技術の研究開発を沖縄の地域の臨床医にも参加を促し、地域特異的な研究のシーズをさがす。沖縄県で会議を主催する。国際会議を主催する。	0.10	日本免疫学会の企画する会議に出席した。がん医療を支える新技術の研究開発を模索するワークショップを1回沖縄県で主催した。
管理運営	0.30	1）講座の責任者として管理・運営に努める。2）学務委員長として大学院生の入学者数の増加につながる方法を模索する。3）機器センターの委員として機器センターの機器や使用法の改善を図る。4）研究戦略委員として医学部のみならず他分野との連携を模索し、琉大として大きな研究戦略プロジェクトの立案を試みる。5）動物運営委員として研究しやすい動物室の運営改善を図る。6）国際交流委員として海外の医学部との連携を強化する。7）副学部長として医学部内での共同研究のシーズを探索し、国際共同研究の推進を図る。8）移転計画推進に協力する。全学の大学院委員会、大学院教育プログラム委員会委員として全学の大学院改革をまともな方向に導く。	0.30	副学部長として医学部長サポートし、管理・運営に参加した。学務委員長として大学院医学研究科の古い規程の改正、東京や那覇での大学院説明会を実施した。機器センターの委員として機器センターの運営を行った。動物運営委員として研究しやすい動物室の運営改善を図った。国際交流委員として海外の医学部との連携を強化した、特に南洋工科大学LKCの研究者と共同研究をスタートさせた。先端医学研究センターのクロスアポイントメント制度で横田先生を特命教授として招聘し、皮膚科学講座との共同研究の橋渡しをした。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	當眞　弘	所　属	大学院医学研究科　寄生虫・免疫病因病態学	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	学部学生に対しては、「寄生虫学」を担当し、コア・カリキュラムの基準を満たす講義・実習を行う。大学院医学研究科博士課程講義「免疫病因病態学特論Ⅰ,Ⅱ」では、研究者としての自立を行い得る高度の研究能力を身につけられるよう指導し、中期目標に挙げられている本学の強みとなる基礎研究推進の一端を担ってもらう。	0.35	学部・大学院教育に関しては目標を達成した。さらに内容を充実させ、問題があれば改善を行う。
研究	0.30	講座スタッフおよび学内・学外共同研究者と共に研究論文2編の国内外学術雑誌への投稿・採択、及び関連ある国内の学会での発表2回を行う。関連する分野の外部資金の獲得を目指す。	0.30	和文原著論文1編が掲載された。植物由来の抗菌活性物質に関する研究については、投稿予定の論文1編を作成中である。国内の学会での発表3回行った。
社会貢献	0.10	名桜大学看護学科では「原虫・医動物感染症」、沖縄県看護大学では「医動物学」の講義を非常勤講師として行う。	0.10	名桜大学看護学科の非常勤講師として「原虫・医動物感染症」の講義を行った。同じく沖縄県看護大学で「医動物学」の講義を行った。
管理運営	0.15	寄生虫・免疫病因病態学講座の一員として、管理・運営に努める。また、医学部医学科教育連絡主任として管理・運営に協力する。	0.15	講座の一員として、教室の管理・運営に努めた。
学生指導	0.10	医学科2年次の指導教員として、受持ち学生の修学面、生活面に対して、きめ細やかな指導を行う。また、ダイビングクラブの顧問として、学内・学外活動に対して、特に安全面に考慮した指導を行う。	0.10	受持ち学生と個々に面談を行い、修学面、生活面の指導を行った。ダイビングクラブは今年1年無事故で活動することができた。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	村上　明一	所　属	大学院医学研究科　寄生虫・免疫病因病態学講座	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	寄生虫・免疫病因病態学講座が行う医学部生への教育補助、また、博士課程学生への教育に積極的に参加し、博士論文作成を指導する。	0.30	基礎配属学生の指導、寄生虫学の実習補助、博士課程学生への指導、大学院講義、高校生向けプログラムへの参加を積極的に行った。
研究	0.40	新規抗体作製技術の研究を深め、国内外の学会で発表を目指すとともに、国際紙への論文投稿2報を目標とする。さらに、現行の抗体研究シーズさらにファージ治療シーズを発展させ、公的な研究費獲得のみならず、企業との共同研究を進めることで、多くの外部資金の調達を目指す。	0.40	国際誌であるTranspl ImmunolおよびAnal Biochemへの論文投稿を完了した。分子生物学会、日本免疫学会での発表を行った。先端医学研究支援事業に採択され研究を行った。所属講座以外の内分泌代謝・血液・膠原病内科学、耳鼻咽喉・頭頸部外科学、分子・細胞生理学などの講座への研究補助を積極的に行った。
社会貢献	0.20	生物学的製剤を用いた検査系・治療系発展のために、基礎的な実験データを集め、その成果を日本免疫学会学術集会、日本分子生物学会年会等で発表する。また、国際紙で発信する。さらに平成30年度に設立した琉球大学発ベンチャーの事業に参画し、大学発のシーズを社会へ活用する。	0.20	学会発表に加え、琉球大学発のシーズから発展した技術を、沖縄県主催のかがくのミ・ラ・イや、沖縄産学官フォーラム等で講演した。また、琉球大学発のシーズの応用により沖縄県の産業を中心に社会への貢献に努めた。
管理運営	0.10	寄生虫・免疫病因病態学講座の薬品管理および機器管理を行う。当講座の研究資金に関する運営を行う。入試監督等、琉球大学全般としての職務を進んで実行する。	0.10	寄生虫・免疫病因病態学講座の薬品管理および機器管理を行った。入試監督等を進んで実行した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	高橋　健造	所　属	大学院医学研究科　皮膚科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	昨年度の学生の意見を反映させての学部学生の皮膚科系統講義の全体像のプログラミング、必要な学外非常勤講師の手配、学部学生の授業での琉球諸島の皮膚疾患の病態解明の紹介、毎週の学部学生のポリクリのプログラム、毎週のポリクリ学生のアンケートのフィードバック、皮膚科研修医・医員への学会発表指導、皮膚科大学院生の5名と研究系教官2名の研究指導、1名の院生の学位取得、皮膚科の大学院生講義、医学部3年生の担当教官としての生活指導など持続して行う。	0.20	大学院生の指導(5名)、学部学生の指導、基礎配属学生の指導(2名)、皮膚科研修医・医員(10名)への臨床指導、ポリクリ講義(毎週2時間)、皮膚科の学部系統講義、皮膚科の大学院生講義、医学部3年生の担当教官としての指導、生活指導など持続して行った。一人が学位を取得した。
研究	0.35	世界皮膚科学会、欧州研究皮膚科学会、シンガポール−日本ジョイント研究皮膚科学会での発表指導。遺伝性皮膚疾患の治療薬のスクリーニングを教育学部の照屋教授のライブラリースクリーニングで継続する。アース製薬との共同で耐性アタマジラミの新規薬剤の承認を目指し学会等で働きかける。沖縄に多い化膿性汗腺炎や血管肉腫の疫学調査と病態解明。掌蹠の皮膚の特殊性をRNA発現のマスデータより決定する。皮膚の内因性老化因子の探索などを進める。ハンセン病の病型出現の解明。これらの課題は、既に科研費を獲得した研究課題である。皮膚疾患のAI診断を目指す皮膚科学会からのAMEDの資金獲得。西アフリカでの難治性皮膚潰瘍治療のための開発を開始する。遺伝性角化症の疾患特異的iPS細胞の樹立のためのAMEDより資金確保の努力。国内製薬メーカーより提供を受けてのダリエー病治療薬のビトロでの効果判定。	0.40	遺伝性角化症：ダリエー病への創薬へ向けて、モデル皮膚による評価系の構築など、田辺三菱製薬との共同開発を進めている。皮膚の内因性老化因子が中枢神経の老化を促進することを発見し、解析を継続している。掌蹠の皮膚の特殊性を、角化の方向性、角層形成、自然免疫の点で明らかにした。皮膚疾患のAI診断と、西アフリカでの難治性皮膚潰瘍への治療加入で、2つのAMED資金を獲得し研究を続けている。新規科研費を講座として、2つ獲得した。
社会貢献	0.05	科研費審査委員としての仕事。皮膚科学会の新専門医制度委員の仕事。乾癬学会の理事。科研費アドバイザリーの役割。特定認定看護師の仕事。各地方の医師会などでの皮膚疾患の講演を20回ほど予定している。古宇利島での皮膚癌検診の持続。沖縄に流布する耐性アタマジラミへの薬剤導入へ向けて、厚労省への陳情を続ける。県内皮膚科医の生涯がクシュとしての皮膚科勉強会の年に20回ほどの開催。西アフリカでのブルリ潰瘍対策のための医局員の派遣。	0.10	各地方の皮膚科医会などでの皮膚疾患の講演を10回ほど行った。ハンセン病学会や小児科学会での特別講演やシンポジウム講演を行った。沖縄に流布する耐性アタマジラミへの薬剤導入へ向けて、学会での報告を行った。沖縄県に多い化膿性汗腺炎の診断ガイドラインを作成した。沖縄県で流布する黄色ブドウ球菌、溶連菌感染の特殊性を発見した。
管理運営	0.15	西部支部皮膚科学会、研究皮膚科学会での評議員としての活動、オリリー協会での評議員としての活動、臨床系皮膚科雑誌 JDEでのセクションエディター活動、および学内での各種の委員会や副学部長仕事も続ける。キャリア形成支援センター長としての仕事。	0.15	西部支部皮膚科学会、研究皮膚科学会の評議員、乾癬学会理事、オリリー協会での評議員としての活動、加齢皮膚科学会、角化症研究会、皮膚の形研究会の世話人としての活動、臨床系皮膚科雑誌 JDEでのセクションエディター活動、および学内での各種の委員会や副学部長仕事を行った
診療	0.20	外来診療・病棟診療での実際の診療を続ける。	0.15	日々の外来診療・病棟診療と、診療指導を行った。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	田中勇悦	所　属	大学院医学研究科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	医学部学生および大学院医学研究科学生の免疫学および感染免疫学について講義、セミナー、演習、実習を行い、免疫学の基礎知識の修得をさせ、さらに最先端の免疫学の紹介を通して免疫学に興味をもってもらえるような教育を行う。また、特色ある共通科目として学生に躰道の呼吸法を教える。	0.35	目標を概ね達成した。
研究	0.50	AMEDや企業から調達した研究資金を基盤として、ガンやHTLV感染症克服を目的とした基礎研究を積極的に行い、研究成果を論文として発表する。さらに、国内外の研究者との交流を図り、共同研究を進める。	0.50	目標を概ね達成した。
社会貢献	0.10	琉大の課外活動として学生に躰道を指導する他に、週末に社会人や地域の少年少女を対象に躰道をボランティアで教える。研究成果を論文、学会発表等を通して広く社会に伝え、成果を社会還元できるようにする。	0.10	目標を概ね達成した。
管理運営	0.05	免疫学講座の長として、講座の進展に心がける。また学内各種委員会の役目を果たす。また、委員会委員を責任感を持って務める。	0.05	目標を概ね達成した。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成３１年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	水口　真理子	所　属	大学院医学研究科免疫学講座	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成３１年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成３１年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	医学部2年次生の免疫学講義および免疫学実習を担当する。また、医学部3年次生、基礎配属学生の技術指導に当たる。学内の試験監督に当たる。	0.30	医学部2年次生の免疫学講義および実習を行った。現在、医学部3年次、基礎配属学生実習の技術指導に当たっている。
研究	0.50	平成31年度からの科学研究費を獲得することができた。これを用いてヒトT細胞白血病ウイルス1型（HTLV-1）によるTリンパ球のがん化メカニズムの解析を進める。また、昨年度までにTリンパ球におけるhTERT遺伝子の発現制御メカニズムの解析を行っており、得られた成果をまとめ、論文を投稿する。第6回日本HTLV-1学会学術集会で発表を行う。	0.50	国際誌へ論文を二報発表した。① Mizuguchi et al., Conservation of a Neutralization Epitope of Human T-cell Leukemia Virus Type 1 (HTLV-1) among Currently Endemic Clinical Isolates in Okinawa, Japan., Pathogens, 9, 82, 2020. ② Kato, Mizuguchi et al., ER-resident sensor PERK is essential for mitochondrial thermogenesis in brown adipose tissue, Life Science Alliance, in press, 2020. 第6回日本HTLV-1学会学術集会（2019年8月23日～25日、宮崎）において、ポスター発表を行った。平成31年度科学研究費を獲得し、現在、ヒトT細胞白血病ウイルス1型（HTLV-1）によるTリンパ球のがん化メカニズムの解析を進めている。
社会貢献	0.10	センター試験などの学外の試験監督に参加する。	0.10	センター試験（2020年1月19日）の試験監督を行なった。
管理運営	0.10	講座実験施設内の環境保全に努める。	0.10	講座実験施設内の環境保全に努めた。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	藤田次郎	所　属	医学部　医学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.10	講義においては、画像をふんだんに取り入れたカラープリントを使用し、適宜、パワーポイント電子ファイルを学生に配布し、学生が視覚的に勉強できるよう工夫する。また画像、および模式図を用いた視覚的な回診を実施することで、臨床実習の充実を図る。	0.00	講義においては、画像をふんだんに取り入れたカラープリントを使用し、適宜、パワーポイント電子ファイルを学生に配布し、学生が視覚的に勉強できるよう工夫した。また画像、および模式図を用いた視覚的な回診を実施することで、臨床実習の充実を図った。目標通りの成果が達成できた。
研究	0.30	自身が第１著者の英文論文を1編以上まとめる。今年度中に感染症関連の教科書、あるいは自身が編集した雑誌を3冊以上出版する。沖縄県の支援を得て実施してきた感染症関連の臨床研究「次世代ゲノム解析技術を応用した感染症診断システムの開発による沖縄型国際感染症研究拠点の基盤形成」の次の事業の予算獲得を目指す。治験調整医師として、抗菌薬の治験を積極的に実施する。学会でシンポジスト、教育講演、および特別講演などの演者、座長を務める。	0.00	自身が第１著者の英文論文を4編（すでに3編は出版され、1編は査読中）まとめた。また感染症関連の教科書、あるいは自身が編集した雑誌を3冊出版することができた。沖縄県の支援を得て実施してきた感染症関連の臨床研究「次世代ゲノム解析技術を応用した感染症診断システムの開発による沖縄型国際感染症研究拠点の基盤形成」の次の事業は公募がなされなかった。治験調整医師として、抗菌薬の治験を実施してきた新薬が発売となった。学会でシンポジスト、教育講演、および特別講演などの演者、座長を務めた。英文論文の執筆で、目標以上の成果が得られた。
社会貢献	0.20	沖縄の感染症診療のスタンダードを世界に発信する。肺炎球菌ワクチンの普及を目的とした講演会を企画する。沖縄県におけるインフルエンザ対策を充実させるとともに、市民を対象として感染症、または喘息関連の講演会（講座、シンポジウムなど）を企画する。新聞・マスコミなどを通し、感染症に関する知識を啓蒙する。	0.00	沖縄の感染症診療のスタンダードを世界に発信するべく、多数の論文発表を実施した。感染症、および呼吸器疾患に関する講演会を多数企画した。論文、および講演会活動を通し、沖縄県におけるインフルエンザ対策を充実させるとともに、結核に関する市民公開講座に、演者として協力した。新聞・マスコミなどを通し、感染症に関する知識を啓蒙する活動として、沖縄タイムスに夏のインフルエンザに関する記事、および間質性肺炎に関する一面記事を掲載した。新聞掲載で、目標以上の成
管理運営	0.40	第一内科科長、および感染対策室長としての責務を果たす。第一内科長としては、論文数を年間50編確保する。第一種感染症病室2床、第二種感染症病室4床、および結核病床4室を活用する。エイズ拠点病院、肝疾患診療拠点病院、がん診療拠点病院としての診療面での役割を担う。感染対策室長として、感染管理の責務を担う。	0.00	第一内科科長、および感染対策室長としての責務を果たした。第一内科長としては、論文数を年間50編以上（和文32編、英文20編）確保した。第一種感染症病室2床、第二種感染症病室4床、および結核病床4室を活用した。エイズ拠点病院、肝疾患診療拠点病院、がん診療拠点病院としての診療面での役割を担った。感染対策室長として、感染管理の責務を担った。目標通りの成果が達成できた。
	0.00		0.00	
計	1.00		0.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成３１年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	健山正男	所　属	大学院医学研究科　感染症・呼吸器・消化器内科学	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成３１年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成３１年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.10	1．学生授業　a)目標：80％以上の出席をし，予習を行って臨んだ学生に対しては国試合格水準はもとより研修医レベルの基本的知識を取得させる．a）内容：診療と直結した双方向とリアリティを感じさせる講義を行う.2．大学院生指導：学会発表、博士論文の作成を指導	0.10	学生授業においては、感染症系統講義世話人として、シラバス、カリキュラム作成にあたった。 感染症系試験問題の作成統括、採点、評価実施。 本学の特徴である、熱帯医学、国際保健のカリキュラムを専門家を招聘し充実させた。 近年問題となっている感染症アウトブレイクに関して、医療行政の講師に依頼し医学部生の将来研修に役立てた。大学院学生の学会発表指導を行なった。
研究	0.25	1．学会誌への投稿　邦文1編，1編（英文誌）．2．著書　2編（分担）　3．総説　2編．　2．研究関連領域の学会発表，総会レベルでのシンポジウム1題，　6題（共同演者含）．3．所属学会での役割　理事，評議員としての活動．4．外部資金獲得　3件以上の獲得（分担研究含む）5．HIV関連神経認知障害の定量的評価の研究	0.25	投稿・外部獲得資金　全て目標を達成した。 学会誌4編（筆頭著者1編、共著者3編）、著書は5編，総説2編であった． 厚生労働省科学研究費は2件(210万)．　AMED　49万。その他受託研究費 652万円（沖縄県550万、エイズ予防財団　75.8万、厚生労働省　19万） 学会学会活動は教育講演1題（日本化学療法学会総会）　シンポジウム1演題（日本エイズ学会）
社会貢献	0.20	1．県より当院委託事業　沖縄県感染症ネットワーク構築の責任者、2．県委託事業　血液・体液曝露曝露時の予防内服配置事業、3．HIV/AIDS予防啓発の執筆・講演．4．医療者・市民におけるHIV啓発、5．**沖縄県HIV連絡協議会委員**活動．	0.20	1．沖縄県エイズ予防薬配置事業の責任者として県内の85％の救急告示病院に整備した。2．HIV予防啓発の県内14回、県外1回講演．3．勤務医，開業医むけの講演会の開催．4．沖縄県HIV連絡協議会委員としての活動．県委託事業：沖縄県HIV予防内服配置事業ならびにHIVしか診療ネットワークを達成した。HIV診療協力病院を2施設開拓した。
管理運営	0.10	1．院内貢献：a)院内感染対策室実務の責任者としての活動，b）HIV診療チーム責任者　c）職員血液曝露対策の実務責任者としての活動．2．輸入感染症治療薬整備責任者、3．沖縄県エイズ中核拠点病院における貢献：県委任事業の責任者（県内診療体制の責任者として構築，研修会，広報誌発行）の遂行．	0.10	1．院内貢献：a)院内感染対策室実務者および特定および1類感染症対策事業としての活動，c）職員血液曝露対策の実務責任者としての活動．2．沖縄県エイズ中核拠点病院における貢献：委任された事項（沖縄県HIV協議会主宰、県内診療体制の構築，研修会，広報誌の発行）の遂行．HIV診療チーム責任者として活動
進路指導	0.01	指導教官担当学生の留年，退学の予防．成績不振者に対する助言2．専門領域を含む進路指導．具体的には指導教官との交流会を6月末までに開催	0.01	担当した指導教官担当学生（１１名）の該当年度の留年者は1であった。経済的困窮の学生の奨学資金獲得に尽力した。
診療業務	0.34	1．HIV/AIDS診療：エイズ中核拠点病院の実務責任者として、県内の85％の患者の外来診療を担当．2．輸入感染症の治療環境整備（厚労省研究班指定薬剤保管者）．3．院内・院外の難治性感染症のコンサルテーションおよび医師の指導	0.34	1．H31年は県内の新規HIV/AIDSの80％を受け入れ、診療体制構築担っている。26名のHIV/AIDS患者を受け入れて救命率100％を達成．2．県内医療従事者育成のための研修を中心者として受け入れた。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。　　☐　**学外公表に同意しない。**　　☐　**学内外公表に同意しない。**

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	新垣　伸吾	所　属	感染症・呼吸器・消化器内科学講座	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	医学部学生の講義を臨床に則した内容でかつトピックを交えながら講義していく。臨床実習学生に対するベッドサイドティーチングの充実をはかる。	0.20	系統講義、病棟での肝疾患に関する講義、ベットサイドティーチングともに目標は達成できたと思う。
研究	0.20	肝疾患のおもに疫学に関する臨床研究を行う。 英文誌への論文投稿を1編以上行う。 学会での報告発表を2回以上行う。	0.10	論文投稿はできなかった。学会での発表は3回。
社会貢献	0.15	学外の研究会への参加・発表を行う。 他施設での講演・講義を行う。	0.10	肝疾患診療連携拠点病院として医療従事者（特に肝臓非専門医）、一般市民向けへの肝疾患の情報提供、啓発活動を講演を通してできた。また院内での肝臓病教室での患者向け、院内勉強会でのメディカルスタッフへも講義を行った。
管理運営	0.05	病院内、学部内各種委員会への参加	0.05	輸血療法委員会、がん登録室連絡委員会、医薬品安全管理専門委員会の委員として参加した。
	0.40	附属病院における診療活動の充実	0.55	外来、病棟での診療を充実してできた。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	仲村　秀太	所　属	医学部　医学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	医学部学生、研修医が主体的に臨床現場での疑問を解決できるように配慮し教育指導を行う	0.30	研修医向けに血液ガスの特別講義を行なった。 看護師特定技能講習にあたり講義を行なった。 保健学科2年次学生に対してHIV感染症の講義を行なった。医学部2年次を対象に感染症学の講義を行なった。
研究	0.10	欧州HIV学会でのポスター発表	0.10	欧州HIV学会HIV夏季セミナーにてポスター発表　日本エイズ学会でのポスター発表
社会貢献	0.10	学外の薬剤師や保健所職員、医師を対象とした呼吸器疾患あるいはHIV感染症に関する情報提供、啓蒙活動を行う	0.10	日本人若手医師のために欧州エイズ学会ならびに日本エイズ学会共同でのワークショップ開催を企画運営に携わり双方と連携を取りつつ会の企画を進めている。沖縄県の医療従事者に対してHIV感染症に関する特別講義を行う予定（2020年2月）。
管理運営	0.10	医療機器安全専門委員会　総合診療センター運営委員会への参加	0.10	医療機器安全専門委員会へ参加した。
診療	0.40	呼吸器疾患およびHIV感染症に関する専門診療および一般内科診療	0.40	呼吸器疾患およびHIV感染症に関する専門診療および一般内科診療
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	大野　真治	所　属	医学研究科ウイルス学講座	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	・担当分野の講義・実習 ・医科学研究学生への指導 ・学生からの講義・実習への意見聴取とフィードバック ・担当学生（一年次）の相談への対応	0.35	・左記の目標は達成できた。
研究	0.35	・外部資金の獲得 ・学内外の研究室との共同研究 ・研究成果の学会・学術誌での公表	0.30	・外部資金｛科研費（基盤C）｝を獲得した。 ・共同研究により、論文を2本発表した。
社会貢献	0.05	・研究会の主催を成功させる ・所属学会や研究会の会員として学会・研究会の発展に貢献する	0.05	・第33回ヘルペスウイルス研究会を主催した。
管理運営	0.25	・責任講座の管理運営に努める ・各種委員会活動において職責を全うする	0.30	・左記の目標は達成できた。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	斉藤　美加	所　属	医学研究科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	ウイルス学の講義;蚊媒介性感染症研究内容とOne Health 視点を反映させた講義を行う。ウイルス学実習の準備・実施・指導・評価 松田区学童松田ガジャンサイエンスクラブ指導	0.20	医学部ウイルス学の講義：蚊媒介性感染症研究内容とOne Health視点を反映させた講義をおこなった。ウイルス学実習において、準備実施指導評価を行った。農学部ウイルス学の講義：「八重山のマラリア史」で、沖縄の蚊媒介性感染症の歴史とシチズンサイエンスについて講義した。宜野座村松田ガジャンサイエンスクラブ(GSC) の小学校児童に対して、蚊媒介性感染症の講義、調査、実験の指導を行い、農学部の学生を科学コミュニケーターとして養成するための指導を行なった。また、農学部学生の卒業論文のための実験、指導を行なった。
研究	0.59	外部資金①科学研究費基盤C(H28-H31年度)「沖縄のコウモリに関与する感染症生態学の高感度網羅的遺伝子探索による解析」 研究代表者として琉球大学戦略的研究プロジェクトセンター、人文社会学部との共同,協力研究②琉球大学時空間ゲノムプロジェクト「洞窟性コウモリの感染症生態学解明のための食性調査」研究代表者として時空間ゲノムとの共同研究　③獲得したトヨタしらべる助成(H31)「がじゃんfreeの地域おこし」宜野座村松田区、JICAとの共同協力研究　④琉球大学平成30年度戦略的地域連携推進経費地域協働プロジェクト推進事業「蚊媒介性感染症から考えるシチズンサイエンスの可能性」琉球大学平成30年度産学官金共同研究スタートアップ支援事業「沖縄に生息する感染症媒介蚊の画像認証システム構築」 の研究結果を日本脳炎ウイルス生態学研究会で発表　⑤①②の成果を日本熱帯医学会で発表　⑥④事業継続のための資金獲得を目指す。	0.50	外部資金による成果　①②③④⑤**学会**　1第54回日本脳炎ウイルス 生態学研究会「蚊の画像診断にむけた、シチズンサイエンスの可能性」2第60回日本熱帯医学会「蚊媒介性感染症対策におけるシチズンサイエンスの可能性ー市民参加型媒介蚊モニタリングのモデル構築の試み 3 沖縄八重山文化研究会 「八重山のマラリア撲滅への鍵（仮）」講演予定（2月）4 第3回時空間ゲノムシンポジウム　発表予定（3月）　**論文**Historical review on Kozen Yoshino’s experimental infections with Taenia solium tapeworms: an experiment never to be repeated. Acta Tropica (in Press) **著作**　デジタルサイト、ストーリーマップ 「八重山のマラリア史ー戦争マラリアとマラリア撲滅ー」公開、**その他　新聞報道**　沖縄タイムス「沖縄の蚊調査世界へ発信」19/5/28　沖縄タイムス「八重山マラリア後世へ」19/7/7　八重山毎日「八重山のマラリア史公開」19/7/10 沖縄タイムス「八重山マラリア克明な撲滅記録」20/1/8　**テレビ放送**　RYUGIN GOOD NEWS「地域で取り組む蚊の研究」19/7/20 NHK沖縄きんくる「マラリアはこうして撲滅された」19/12/13　⑥資金　トヨタ研究助成金「蚊媒介性感染症対策における伝統知と科学知の融合」申請⑦その他、学内Inter-island resilience and vitality プロジェクト メンバーとして研究
社会貢献	0.20	JICA「地域保健システム強化による感染症対策」コースにおいて、蚊媒介性感染症等担当。沖縄県食肉衛生研究会審査員（学識経験者）として沖縄の食肉の安全向上に寄与する。日本脳炎ウイルス生態学研究会（運営委員）。松田区での取組み成果の地域連携フェア出展。	0.20	JICA「地域保健システム強化による感染症対策」コース　蚊媒介性感染症とOne Health、八重山のマラリア対策の歴史の講義、松田小学校との交流、松田ガジャンサイエンスクラブ(GSC)でのシチズンサイエンスの取り組み視察を行った。松田区での松田GSCの取り組みがメディアで取り上げられた。（上記）松田GSCが第2回国頭地区善行児童生徒表彰。食肉衛生研究会はCSFの影響で中止。
管理運	0.01	入試センター試験監督業務	0.01	入試センター試験監督業務を行なった。
計	1.00		0.91	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	仲地佐和子	所　属	大学院医学研究科第二内科(糖尿病・がん病態解析学講座)	職　名	特命助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.15	(1)ポリクリ学生、研修医への教育、レクチャー (2)M3学生への系統講義(白血病と類縁疾患、赤血球系疾患、凝固系と線溶系　年3コマ) (3) 医科学研究に関する指導(基礎配属)	0.15	(1)M3系統講義は十分行えた。(2)ポリクリ実習生へ患者を担当させ、カンファレンスでのプレゼンをしてもらい、discussionを行った。2018年2月～2019年1月までにのべ100人の医学生が血液内科を選択肢し、ポリクリ実習を行えた。(3)血液学会の教育認定施設であり、指導医取得のため論文執筆中である。
研究	0.45	(1)血液悪性腫瘍症例リサーチ：検体収集、症例報告発表　(2)日本臨床腫瘍研究グループ(JCOG)、日本成人白血病研究グループ(JALSG)の多施設共同研究の施設参加　(3)SGLT2阻害剤による血液悪性腫瘍における抗腫瘍効果のメカニズム解析 (4)(3)の論文作成	0.45	(1)外来、入院患者におけるATL患者へ研究内容の説明を行い、同意書を取得し検体を回収した。過去の移植成績データを解析し、発表できた。(2)JCOGの審査に通り、認定施設となった。また、数回の県内外の研究会・講演会に参加・実施できた。(3)論文作成し、現在投稿中。(4)引き続き継続研究を計画中。
社会貢献	0.10	(1)製薬会社の勉強会、座談会(年2-4回)（2）県内血液内科関連施設との協力関係の構築(臨床試験の周知、移植症例の検討)	0.05	(1)製薬会社主催の講演会などの講演、座長などを勤めた。(2)県内の他施設へ臨床試験を周知し、患者の紹介をしていただいた。また、移植症例を検討し、患者の紹介をしていただいた。
管理運営	0.05	(1)9西病棟の無菌室の運用にかかる安全管理 (2)移植施設における施設基準の遵守と安全管理	0.05	(1)9階西病棟の無菌室の稼働は重大な問題もなく、稼働している。(2)移植認定基準を遵守し、移植件数も年間18件と増加している。
	0.25	(1)血液内科に関する診療：外来診療、入院診療、ドナーコーディネート、 ドナー適格検査 (2)骨髄バンクドナーの骨髄採取(年間10-12回)	0.30	(1)血液内科の外来診療は大きな問題もなく経過した。のべ約100人強の血液疾患患者の入院診療を行った。うち、病理解剖を6件実施した。(2)骨髄バンクドナーの骨髄採取は小児血液医と協力し、これまでの月1回から月2回のペースで円滑に行えるようになった。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。